

三商同窓会報

ホームページアドレス

<http://tcsaa.jp/>



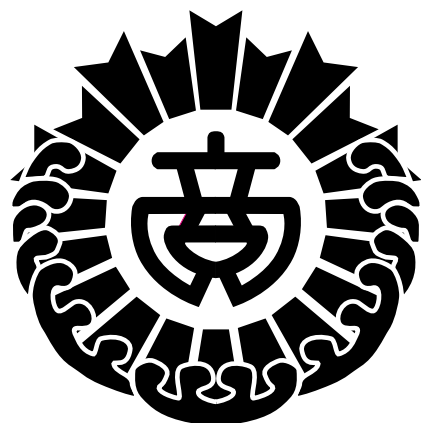
No.59

令和 3年8月1日発行



令和 2年新年会

校歌



作詞 前田
作曲 山田
編曲 脇

夕暮
耕稼
則之

都の空は明けたり、今
希望は燃ゆる若きわれら
都立第三商業、ここに拠るや
日本の富を担ふわれら

富岳の雪を望む窓辺
理想は高し、若きわれら
都立第三商業、ここに居るや
都の栄えを築くわれら

東都の海の門にありて
心は濶し、若きわれら
都立第三商業、ここに立つや
江戸の誇りを継げるわれら

応援歌

作詞 多田
作曲 池内友次郎
編曲 青山政憲

見よ、三商の旗じろし

T・C・Sの行くところ

旭日洗ふ波がしら

ここに刻む若人の

勝算すでに吾にあり

頑張れ三商、頑張れ三商
(ふれっ・ふれっ・振れー)

聞け、三商の底ぢから

T・C・Sのはた風は

歴史が語るその誉れ

受け継ぎ来たる若人の

命の誇り吾にあり

頑張れ三商、頑張れ三商
(ふれっ・ふれっ・振れー)

見よ、三商の鉄の陣

T・C・Sの旗の下

正義に結ぶ和のこころ

明るく強き若人の

凱歌はすでに吾にあり

頑張れ三商、頑張れ三商
(ふれっ・ふれっ・振れー)

凱歌はすでに吾にあり

頑張れ三商、頑張れ三商
(ふれっ・ふれっ・振れー)

凱歌はすでに吾にあり

頑張れ三商、頑張れ三商
(ふれっ・ふれっ・振れー)



三商同窓会報 第59号 CONTENTS

校歌・応援歌	思い出の記	大関 守 0 9	三商思い出の記	細田安治 2 4
目次	三商の思い出	木下栄子 1 0	三商の思い出	丸山清一 2 7
—ごあいさつ—	三商の思い出	木戸隆吉 1 1	東京都立第三商業高等学校入学当時の思い出	正井伸也 2 8
同窓会会長	思い出の記	木村浩直 1 2	三商の思い出	宮下孟本 2 9
都立三商学校長	思い出の記	木村滋男 1 2	思い出	森 莞 3 0
都立三商教諭	三商の思い出	小西照男 1 3	三商の思い出	森田兆蔵 3 1
19期特集に向けて	三商の思い出	砂村俊雄 1 5	三商の思い出	渡部泰博 3 1
—第19期特集—	思い出の記	高橋唯夫 1 5	あとがき	細田安治 3 2
巻頭の言葉	思い出の記	谷口博三郎 1 6	—寄稿文・エッセイ—	
発刊の経緯	思い出の記	高野照三 1 7	「本物の八百屋」野本要二さんが勲章をゲット!!	古田勝一 3 3
三商の想い出	三商の思い出	中山峯男 1 7	■黄泉に旅立った故細田武君(二十一期)を偲ぶ■	高野 昇 3 4
思い出の記	私の転職	中村三郎 1 8	旅の徒然・閑話休題	黒子 晃 3 7
三商の思い出	思い出の記	中野 巖 1 9	22期同期生の皆様へ	篠崎 清 3 9
思い出	在校時代の出来事・思い出	中野貞三 2 0	公益財団法人東京三商会より	杉本光男 3 9
三商の想い出・弁当の想い出	珠算日本一の紹介	2 2	同窓会事務局より 活動報告予算他	4 0
三商の懐かしい想い出	思い出の記	花村晃次 2 2		
三商の思い出	思い出の記	平井 直 2 3	広告のページ	

ごあいさつ

大切な人の心を照らす存在に



同窓会会長

第31期 三浦康二

1年半余のコロナ過にあつて、母校三商も学校行事や通学方法や部活動、又教室で勉強方法も過去にはなかったような様々な体制で行われております。校長先生をはじめ教職員の皆様は感染の抑止に取り組まれており、同窓会一同より感謝を申し上げます。

昨年にコロナ過が始まり同窓会活動も自粛を余儀なくされ、毎年発行してまいりました同窓会報も制作を断念するに至り皆様にお届けすることが出来ませんでした。

本年は会報制作委員会も様々な感染対策をいたして、特に19期の皆様の熱意あふれる原稿集めをいたしていることも含めて会報59号を発行するに至りました。

昨年に母校三商に赴任されました皆川校長よりのあいさつも掲載することが出来て関係者一同に感謝を申し上げます。

現在のコロナ過を「災い転じて幸となす」機会にしていかなければならないと思います。今までの自分を振り返り足元を見つめ直せ、と言うのがコロナの教訓ではないかと思ひます。スペイン風邪が100年前だった事を考えると、100年に1度ともいふべき重要な機会とも考えることもできます。感染

症は自分たちが望んで得るような機会ではありません。このコロナ過で命を落とす人がたくさんでる事は本当に残念で痛ましい事です。だからこそこの困難を無駄にしてはいけなと思います。偉人の言葉に「大空よりも大きなものがある。それは私の生命である。大海原よりも深いものがある。それはあなたの生命である。全宇宙のあらゆる宝よりも尊いものがある。それは私たちの生命である。」自分が一人が健康でも少しも幸せになれない事を私達はコロナ過で学んだ。自分だけの幸せではなく共に幸せを願う心こそがこの危機の時代の闇を晴らす力となる。

人の足元を照らそうと明かりをつけると自分の足元も明るくなる。誰かのために行動することは自分のためにもなる。私達同窓会の行動も母校のために又同窓生のためになる活動をしてまいりたいと思ひます。

今回のコロナ過を機に人類が直面した危機を世界中が手を携えて克服したという歴史を早く刻みたい事を皆様と共に願っております。

三商エヴオリュション コロナ過を乗り越え百年に向けての進化



都立第三商業

学校長 皆川貢治郎

三商同窓会の皆様にあらず
はご挨拶を申し上げます。

令和2年4月1日付けで校長に就任した皆川貢治郎と申します。本来であれば、令和2年の同窓会報でご挨拶を申し上げるべきところ、新型コロナウイルス

ルス感染拡大を受け会報の発行が延期され、遅れましたことにつき、お詫び申し上げます。同窓会の皆様には、日頃から本校の教育活動に多大なご支援を賜り、心から感謝申し上げます。中でも、東京三商会の奨学金につきましては、都立高校の中でも、随一のものであり、本校生徒を物心両面で支えていただいているものと、保護者・教職員一同、感謝いたしている次第であります。本当にありがとうございます。

私も専門教科は商業で、簿記、経済、情報処理など、教鞭をとって参りました。三商赴任前は、伊豆大島の大島高等学校で校長職をつとめ、島しょ教育振興に携わってきました。そこでは、大島の自然を活かした農林科、家政科など、特色ある教育活動を展開してまいりました。

三商着任しての現在は、この伝統ある商業高校の魅力を最大限に発揮し、新しい校舎のもと、特色ある専門科目の教育を柱にさらに進化、発展させていく所存でございます。

さて、次に現在の学校の様子について、ご説明いたします。この原稿を執筆している時期は、東京都に緊急事態宣言が発出されている状況下にあります。生徒は分散登校。これは、最大登校できる人数が全校生徒の三分の二のため、ひとつの学年は自宅学習となつているところです。自宅学習の生徒は、オンラインでホームルームを受け、課題等に取り組んでいます。また、昨年は体育祭、三商祭、2年修学旅行など多くの学校行事を中止せざるを得ないこととなりました。今年、令和3年も状況は一進一退という状況です。そんな中でも、3年生は進路活動、1、2年生は検定に向けての学習に精を出しているところ です。校歌の一番にありますように、コロナ

渦をのりこえ、都の空が開ける状況になりますよう邁進してまいります。

創立94年を迎えました。次の百年に向け、日進月歩で進化するビジネス教育に対応した、学校づくりを行い、生徒に多くの経験を積ませ、社会にはばたかせ、同窓会のメンバー加わることができるよう、教職員一同、努力を惜しまず教育活動を継続していきます。つきましては、これからも同窓会の皆様方からのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

三商の思い出

都立第三商業

進路指導部主任 河原田 一郎

私が第三商業に赴任したのが、東日本大震災の起こった年でした。ちょうど、校長面接で呼ばれた時にその混乱で面接が延期されました。当時の天野校長先生が荒川商業の副校長先生との縁で引つ張られたことが、思いだされます。越中島という地名はとも江戸下町の香りが漂う地名で何となく親しみがありました。

赴任した当時は、学校の様子がよくわからずに、慣れるのに苦労しましたが、門前仲町の商店街の福引抽選会やお江戸深川桜まつりの和船乗船の手伝いを生徒と手伝いをしていると、「私、〇〇年の卒業生なの」と三商の文字が染め抜かれた青の法被姿を見て、よく声をかけられて、この学校は本当に地元

に愛されている学校なんだなあと思いました。毎年、行われる校歌祭では、卒業生の方々と一緒に歌う校歌や応援歌で元気をもらい、母校愛の深さに感慨を受けています。

私は、校歌の1番の

都の空は明けたり今 希望は燃ゆる若きわれら

都立第三商業ここに拠るや

日本の富を担ふわれら” が好きです。

また、応援歌の

“見よ、三商の旗じるし TCSの行くところ

旭日洗う波がしら ころろに刻む若人の

勝算すでに吾にあり 頑張れ三商 頑張れ三商”

まるで自分自身の母校のように今では、私の人生の中で勇気と誇りに思う学校となりました。

私はこの第三商業は小さな時から学んできた生き方で「雪が降る寒い時に炭を送る」。人が最も困っている時に必要な物を送って助けるという意味の言葉を常に心に留めながら生きてきました。さらにこの学校で多くの義理や人情にたくさん触れてくる中で、古き良き図書館に掲げられている「温故知新」の精神が脈々と受け継がれて来た素晴らしい伝統のある学校と感じ働いてこれたことにも感謝しています。

私は、進路指導の際に生徒に確認する言葉があります。

- 一、 はい という素直な心
- 一、 すみません という反省の心
- 一、 おかげさまで という謙譲の心
- 一、 させて頂きます という奉仕の心
- 一、 ありがとうございます という感謝の心

を胸を張って言える三商としての誇りを胸に毎年生徒達を励ましています。

「第三商業」ありがとうございます。

19期生特集に向けて

都立第三商業学校長 皆川貢治郎

今回の同窓会報は、19期の皆様の思いの結集であります。大志を抱き三商で学び、産業界でご活躍いただいている皆様の人生訓と感じております。私事ですが、実父は昭和8年本所の生まれで、鴨川で集団疎開を経験するなど、戦争の影響を受けた世代となり、当時の話を幾度と聞いております。19期の皆様の思いを受け、次の百年に向け、日進月歩で進化するビジネス教育に対応した、学校づくりを行い、生徒に多くの経験を積ませ、社会にはばたかせ、同窓会のメンバー加わることができるよう、教職員一同、努力を惜しまず教育活動を継続していきます。つきましては、これからも同窓会の皆様方からのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

19期生へのコメント

第31期 同窓会会長 三浦康二

本年コロナ禍の中で同窓会報を発行できません事は偏に19期の皆様の同窓会に対する熱意の賜であります。19期の皆様は本年米寿をお迎えになります。1800年の時を経て、その偉業が色あせることのない中国の「三国志」の希代なる老名軍師である「諸葛孔明」の言葉を添えたいと思います。「大切なのは時である」「勢いである」そして「あらゆる力を結集することだ」まさに19期の皆様に相応しい言葉だと思えます。ありがとうございます。

第19期特集

もっとも日本が変わった時代に
もっとも多感な年代を過ごした人たちの言葉

巻頭の言葉

第19期代表 森 莞



19期会のメンバーの一部は旧制中学で三商に入った。途中で学校改革の6・3・3制となり、一時的に三商の付属併設中学となりました。そのために三商に通学した年数が6年となり、落第以外で永く学校に居たのは我々だけです。それを思い、学生時代を語り合うと言うことで思い出の記を書くことにしました。



旧 校 舎



入 学 式 全 員

発刊の経緯

第19期 細田安治



◇「思い出の記」を書くに当たり19期会森代表、正井幹事長はじめ大関庵に毎月集まる学友たちのご協力により、60名余の学友に呼びかけたところ、30名の学友

から貴重な寄稿を頂き、誠に有難く感謝申し上げます。（別紙名簿の通り）

ここに特筆したいのは、平成14年（2002年）19期会の発足から、20年に喟々とする年月にわたり会の本拠地として店を開放され、なにかと惜しまぬ協力をしてくれた同期の学友、大関庵店主大関守君に一同より心から感謝を申し上げます。

学校長皆川貢治郎先生、進路担当河原田一郎先生にもご祝辞を頂きました。

更に嬉しいことに24期尾坂富美子さん、26期第7代同窓会長を勤めた岩瀬和子さん、同じく26期の公益財団法人東京三商會理事長杉本光男さん、29期公益財団法人東京三商會副理事長土方敏之さん、ほか皆様に御好意ご協力を頂き、「同窓会報 19期特集号」として、発刊の運びとなりました。特集号の発刊に当たり、皆様の御好意ご協力に対し、19期会一同より心より感謝申し上げ発刊の経緯のご報告とします。



第二代今村直人校長先生

三商思い出の記

第19期 荒川幹郎

私が三商に入った経緯から書きたいと思います。生れは福井県丹生郡殿下村と云う山の中の寒村で一日に午前午後の二便しかバスがなく、

し入学の許可を頂きました。校友の人達にも喜んで受け入れられ楽しい学校生活が始まりました。

クラブ活動では、テニス部、タイプ部で楽しみました。

クラスでは、一年毎に組替えがあり、二年目に一組に入り十九期会全体でも女性五名でしたがその組に入り男性達から羨ましがられたこともありました。

休み時間には屋上で三角ベースを行い楽しんだ事も良かったです。

テニス部では、昭和二十六年全国大会（マッカーサー元師杯）の競技で東京大会に出場させて頂き、校友二瓶氏とダブルスで参加、東京各校より五百組以上の参加がありましたが、チームワーク良く決勝四組迄残りました。決勝大会は三位で終わり優勝できず残念でした。

卒業してからも多くの校友に恵まれ、十九期会の有志で毎日十九日に散歩会と飲食会（両国大関庵）を続けておりますが、今年はコロナウイルスの感染で出席出来ませんでした。早く皆様と再会できるようお願いしております。

終りに、三商在学中、先生方、同友人各位に対し多くの恩情を頂き感謝いたします。



三 商 の 思 い 出

第19期 伊藤昭雄

三商を受験する！

昭和24年2月・読売新聞の夕刊に「都立第三商業高校生徒追加募集」の記事を見つけた。



当時、安田学園の第一中学校から高校に進学する

予定であったが、後に学園長になられた担任に相談したところ「内申書を出してくれたので、三商を受験」することが出来た。

クラスは、一年五組で担任は八田（バッタ）先生。

屋上時計台前に集合！

全員が屋上・時計台の前に集合し、正座させられて喝を入れられた。その時、先輩の金沢さんが「君は正座しなくても良い」といって呉れた。

生徒会長選挙！

二年の時、生徒会長の選挙でクラスから「泉 新之助さん」を推薦したが、候補者が少なく当て馬で担ぎ出された。「立会演説会」は雨だった。挨拶で「泉さんを推薦する」と言つて、後で先生に怒られた。

クラブ活動等！

① 新聞部 バレー部が都大会で優勝して松江市での全国大会に出場した。

② 二回戦・実質一回戦で敗退。全員坊主頭で出雲大社に参拝して帰京。（その後撮った入場行進の写真は、同窓会に寄贈）

尚、読売新聞社の指導で、白鷗、深川、両国、隅田川の高校新聞部との交流会を主催。

② バトミントン部

高校二年の時、宇梶先生から今度女子生徒が四人くらい入って来る。「体育の授業で何をやらせようか」と話があり、体育館で法政大学のバトミントン部が練習をしていたので「バトミントンは如何でしょう？」と言った。これがキッカケで鷺崎英子さんを部長にバトミントン部を創設したが、コートは男子が占領した。

昭和26年夏、高体連東京大会に小野内・石川・塚原君等と出場し、聖学院、九段高校等

強豪に次いで第三位に入賞した。

③ 演劇部

高演連の大会にモリエールの「眼鏡」を上演しようとしたが、「内容好ましからず」で差し止められた。

尚、主役の一人「大前 亘君」は、後に東宝映画の撮影所にいた小生の兄の紹介で俳優になり「潮騒（青山京子主演）」を始め、戦記物に多数出演している。

④ 修学旅行

生徒会役員は市内巡回（？）誰かが「舞妓さんが見たい」と言い出し、祇園・甲部の備前家さんと言う料亭の女将さんに話をしたら「今着付けをしている舞妓さんを見せてあげる」と言つて呉れた。（勘定は誰が支払ったのか？）

就職と宝物！

① 身体検査（小児麻痺）を理由に入社試験（二社に失敗）。今村校長が紹介して呉れた会社は、「卒業後も学校に行くようでイヤだ」と断った。

② 昭和26年夏、就職しない心算（つもり）だったが田部井先生が「東京信託銀行（現・三井信託銀行）に願書を出してくれ合格」した。

③ 昭和27年正月、故・前田継一君と田部井先生宅を訪問した時に、飾り棚の上に有った「達磨の焼き

物」が欲しいと言ったら、「仕様ががないな」と言い乍らも頂戴することが出来た。
我が家の宝物である。

追記

十九期会は、毎月19日に散歩会を開催し、散歩の後に両国の大関庵（店主・大関守君）の好意で食事会を行っている。以上



思 い 出

第19期 池本 寛

三商の六年間は戦争の混乱期、家業の酒屋は生活必需品を扱い、大変忙しく、学業は疎かであった。その中で遠い思い出として記憶に残っているのは、入学して間もない、中学生。一年一組担任は吉住先生（通称熊さん）夏休みに宇治君（豊洲に在った日東紡の役員の息子）と二人で京王線、多摩川の分倍河原の家へ招かれ一泊した。

食糧難でありながら歓待していただいた。

宇治君はひよろつとした体型で常にグローブと球を持って校舎の壁に向かっては投げては捕る。時間があれば繰り返してやっていた野球少年であった。

翌日先生の娘さんに近辺を案内して頂き府中の大國魂神社に参拝、記念にと御札買いをした所、娘さんが笑いながら貴方達には、まだ早いわよ!!と言われた意味が解らなかつた。

時は過ぎ後年、神社は縁結びの神を奉る祭神であることを知った。

成る程、中学生では早かつたなど、懐かしく心に残る思い出である。

宇治君は三学期を待たず、福島に転校していった。

風の噂では東北地方の野球の名門福島商業高校の二年時に甲子園に補欠（内野手）として出場したとのことである。



三商19期・散歩会 平成26年3月19日（水曜日） 於 大鳥神社



第101回 三商十九期・懇親会 平成23年5月19日（木曜日） 於 大関庵

三商の思い出・弁当の思い出

第19期 絵面敬三

三商に入学してからしばらくの間の間の弁当はジャガイモ三ヶとおかずは少しの塩だけでした。

兄弟姉妹が八人だったのでさつま芋のもの「金時芋」などは買えなかつたようで中身が白い大きな丸い茨城番号という「さつま芋」でやわらかすぎて弁当には向かなかつたので長い間弁当はジャガイモが多かつた。

十ヶ月位たった頃、父が自分の実家へ行って米を



買ってくれて明日は白いご飯の弁当にと、私はうれしくて学校への都電の中で今日の弁当は白米なんだと話していた。

その日体操の時間で校庭に出ましたが、体の具合が悪い友人が教室に残っていた。

いよいよお昼の合図の鐘が鳴り、おもむろに弁当を開けてビックリ、ちょうど真半分におかずの「干納豆」が一面に引きつめられていたものが、左真半分におかずとご飯がなくなっていた。

弁当の無い（持参）友人達が「日なたぼっこ」から帰って来た。

体操の時間に休んでいた友人の顔がピンクに染まっていたので、私は何か良い事をしたような気分

なった。

以前戦時中は同じ戦友としてガンバッテいた仲間だったので、怒ったり騒いだりはしなかった。当時でも弁当を持参出来ない仲間も時々見かけた。話をした仲間もいて、朝も丸い中身の白いさつまいもを兄弟と分けて食べたので、弁当の分は無かったと話しているのを聞いて俺は幸せ者だと感じていた。

三商の懐かしい思い出

第19期 岡野静夫



昭和20年終戦の年の秋、集団疎開先から帰京し、翌昭和21年4月都立三商へ入学した。

北千住にいた自分がなんで越中島の三商だったのか判らなかったが、商人であった父親が良い商業学校へと手続きをしてくれたらしい。

千住新橋の都電終点から茅場町経由、深川不動前まで約一時間半都電に乗り、そこから歩いて学校に通った。不動前から学校までは全くの焼け野原で、橋の袂には戦災で亡くなった人々が埋められた土饅頭が残されていた。

幸い三商は、鉄筋コンクリート造りで立派な時計台付きの3階建て校舎が焼け残っていた。

地下室は水浸しで池となり小魚が泳いでいたが、周辺の状況からすれば恵まれた学び舎であった。

入学した翌年、学校制度が六、三、三制に代わり、我々も新制中学に移行し2年目から新制都立第三商業高校の併設中学生となり、高校卒業まで延べ6年間お世話になった。

入学当時は、戦後の混乱期の物資不足時代で洒落た制服などは夢のまた夢、戦闘帽にカーキ色の布の力パンと色とりどりの服装で通ったものだ。

先生方も同様戦時服の姿であった。満員電車の窓枠にぶら下がり、通学途中に米軍兵士にチョコレートを買った事もある。

学校の隣接地は、米軍第8騎兵師団の駐留地となっており、その間に小さな都営住宅があり、数人の先生方が住まれ我々の指導に当たって呉れていた。

体育実技の替わりに江戸川の河川敷に農作業にいったこと、遠足が多摩墓地で吉住先生のお世話で芋の買出しをして来た事、今では想像もつかない様な厳しい環境状態の中での併設中学3年間であった。しかし今となっては厳しかった中にも楽しかった思い出も多く、貴重な体験となっている。

勉強の方は杉原先生の算盤塾へ通った程度の出来の悪い生徒で、何となく遊んで過ごしてしまい反省している。

高校1年移行（旧制4年）と同時に男女共学生が入り入れられ、我が校にも4人の女子生徒が入学してきて我々男子生徒は興味津々大騒ぎしたのを覚えている。2年、3年と女子生徒が増えてきたが、卒業当時は圧倒的な男子校であった。今から思えばなんと変わった事か。

高校1年の時、栃木の佐野実業から新里正雄君が転校されてきて小生と同じ席になった。

大変真面目な男で、彼の刺激で簿記会計に興味を持ち、これがきっかけで遅ればせながら勉強に励むようになり、お陰でそここの成績で卒業させて頂いた。

昭和27年就職戦線厳しい最中、三商の名と今村校長、清田先生他諸先生のご尽力で三菱銀行に就職させて

三商の思い出

第19期 小野正実



第224回 三商十九期・懇親会 令和3年1月19日(火曜日) 於 大関庵

19期現役で活躍中の猛者 大関庵店主大関守は今も自らそばづくり

頂き、無事定年を終え、今は恵まれた年金生活を送らせて頂いている。

来年87歳(数え88歳)米寿を迎える我々19期生は、今も毎月19日、大関君のご好意で「蕎麦処大関庵」でクラス会を開催、近況や昔の思い出話を語り合い交遊を深めている。

まもなく卒業後70年、大関会も20年となるが、時計台のあった旧校舎を懐かしく思うと共に、三商という良き学校、良き先生、良き友人に恵まれた事を誇りに思い感謝している。



三商二年の時の担任は山崎先生だった。

山岳部部(部長矢島先生)に入った。同期は鳥海、小野、佐々木、もう一人で、四人いた。

高校登山トーナメント大会に参加し、丹沢に登ったこ

とが印象に残っている。

富士吉田まで最終の電車で行き、バスで1時間程の丹沢登山口で早稲田大学の山岳部二人と合流した。

この二人のリーダーの後ろについて登った。こちらは重いキャンプ道具を背負っている。リーダーは何も背負っていない。4時間〜5時間寝ずに歩いて登った。

途中で休憩食事の時間に、テントを張り、カレーライスを作って早稲田のリーダーに食べて貰ったが、「このカレーライスは不味い他の高校のほうが旨い」と言われ不愉快だった。

面白くないから「帰ってしまおう」と思ったが我慢して、高いビルのような登山道を登った。頂上の峠で昼の二時頃解散した。この時の印象が悪く早稲田へ入学したが、山岳部へは入らなかった。

◇登山レースの評価

耐久力、マナーを審査し評価する。高校のトーナメント戦で最終は、滋賀県鈴鹿峠での決勝戦で順位が決まる。森莞は登山の経験者。社会人時代に山岳部員が100名ほどいるクラブに所属していたが実際に登山するメンバーは50人ぐらいだった。

◇北アルプスでの山岳事故

昭和30年早稲田の二年の時、プライベートで北アルプス塩見岳(標高3000m級)へ三人で登った。

昭和26年度



三商富士登山隊 記念写真(参加者)

頂上を踏破したが、下山中に一人が絶壁から滑り落ちた。行方不明になり、警察に頼んだことでテレビに放映され大騒ぎとなったしまった。読売新聞に書かれてしまった。

この記事を書いた記者は、読売新聞に入社早々でしかも早稲田の後輩の男だった。彼が最初に書いたのは自分たち(小野)の遭難事故の記事だった。

正井とは、明徳小学校一年で同じクラスだった。明徳で当時(昭和15年)昼弁当を持ってきたのは小野だけしかない。小野は当時から有名でボンボンと言われていた。今でもボンボンと言われている。その後明徳から隅田川公園のそばにある小梅小学校に転校した。学制改革で名門校の明徳小学校は中学に

昇格し名称は墨田区立本所中学となった。余談だが、王貞治も明徳小学校の出身である。森莞の生家の菩提寺は本慶寺で、中山峯男や、正井伸也、白井誠一など同級性が多く住んでいた東駒形にある。

小野正実は早稲田文学部、大戸英治（ガラスや）は商学部、大村彦次郎は政経部→文学部へ転部文学部卒で、講談社の役員であった。谷口博三郎も早稲田、増田は夜間部で学ぶ。

小野は谷口とスキーは一緒にしたことがある。

思い出の記

第19期 大関 守



旧制都立第三商業学校（中学）入学した時は、中野貞三君と一緒に1年2組だった。佃小学校から十数人三商へ入学した

パーマの花里敏夫は、築地の海老屋問屋で小学校から一緒だ。小学校は佃小学校に通った。1年の時明大学長になった岡野加穂留（かおる）氏と同級だった

佃小学校は実は佃島にあるのではなく月島の西仲通りの入り口にあった。

1年2組担任の先生は、直ぐに退職したので名前は思い出せない。次の先生は八田先生で綽名は（バツタ先生）だった。

中学一年の同級生で、親しい友人は水谷照男君だが彼は惜しいことに、59歳で亡くなった。

水谷の父親も自分（大関）の父親も、石川島造船工業で起重機の運転手だった。

同じ町内で小学校も一緒。親同士も友人、水谷とは、親子二代にわたつての友人だった。

池本覚は月島小学校だったので別だった。戦時中佃小学校の集団疎開は、秩父の山奥皆野町三沢にある天理教の道場で生活した。

朝晩に約15分間正座して「悪しきを払って助け賜へ天理教のみこと」と唱えた。

昔の天理教の道場は板張りでトイレは横長の集団トイレだった。当時はどこでもそうだった。

食べ物不足で、いつも空腹で何でも食べた。埼玉県では桑の栽培が多く赤い桑の実を方言で「とどめ」と言う。食べると口が赤くなるのですぐに食べたのがわかるが空腹に耐えかねてよく食べた。枝豆やだつちや豆もよく食べた。この19期会ができてから、算盤の中野君が集団疎開先の山形鶴岡から、だつちや豆を持ってきたことがあった。昔を思い出し懐かしく頂いた。ことを今でもはつきり覚えている。

二年五組の時の担任は横尾先生、あだ名は台湾ゴリラであった。三年五組も組替えがなく持ち上がりで台湾ゴリラに教わった。真面目な先生で、通信簿を成績順にグラフ化し、一覽直後の黒板の上部に書いて皆に発表した。

川島、多田宏、小沢、池上などが同級だった。多田宏は三商の応援歌の歌詞を作った。佐々木実（佃の工場の倅）越ヶ谷へ引っ越したが亡くなった。

小岩から三商へは、中野、鈴木大輔など小岩から十人以上来ていた。

キティ台風の時、小岩は水浸し、三商は向かって左側に階段教室があり、下が地下室になっていた。向かって左、つまり東側の階段教室側に傾いていた。

◇高校では、一年二組で担任は矢島先生、立派な先



19期 88歳で現役活動中の猛者 大関庵店主 大関守 そば造りは俺に任せろ

生だったが、東北弁がきつく「いろはにほへと」を標準語で発音できなかった。

高岡俊夫（山崎パン）、川名宏、荒川泰三（木場の材木や）横浜第一高商へ行った。

谷口博三郎、竹内宏、木城正之は、算盤上手だったが、しかし、中野には勝てなかった。

鎮目（しずめ）忠正、丸山清一、平井直等が同級で仲がよかった。

山本秀康が務めた岸本商店は有名な会社で今でも帝国劇場とやらんでビルがある。大関は音楽部に魅力

を感じていた。

高校時代、タイプ部長は大関守自分だ。女の子四人全部タイプ部に来た。同級生が女の子目当てに入部したが、タイプが目的でなく、女の子目当て遊びになっちゃった。タイプ部の坂井照夫先生は、浅草の質店の息子、南千住行き電車で一緒に通った。

自分の父は石川島へ入る前の若い時、蕎麦屋で丁稚奉公し、石川島退職後、蕎麦屋を始めた。

山崎穰一は小学校同じだが中学は別で高校から三商へ入学し、大学は日大だった。

月島機械は、ガチャガチャ工場と言われるほど、年中、ガチャガチャと音がうるさい工場だった。

尚、同級生の柴原章、小林邦夫などは月島から通っていた。大関の当時の住所は京橋区新佃島西町2-10（現在佃2-10-4）昭和24年まで在住し徒歩通学でした。

中学の二年、三年には、絵面敬三の兄さんの昭さんがいた。歌が上手だった。

絵面は火曜日、金曜日上野の会社に今でも出ている。鹿取先生の綽名はゴールドデッパ、鹿取文房具店の親父が習字の先生をしていた。平野町の深川警察の手前の、都電が急に左に曲がる右かどに店があつたのを覚えている。

◇大関守のとっておきの話

自分の受験番号は今でもはっきり覚えている。何故かと言えば、三商に入学願書を出して、正面玄関から生徒通門途中の塀側を歩いていたら（当時二月の中旬午後）、背の高い体の大きい人に後ろから声をかけられた。「君は三商を受験したのか」それで「君の受験番号は何番」と聞かれた。いったいこの人はどんな人か？なぜ聞くのか？と不思議に思ったが、聞かれるままに私の受験番号は「245番」です。



大関庵 第一回

と答えた。「245番か、随分遅い番号だな。だが心配ない。全員合格できる」と言われた。この人は一体誰だろう。何故受験番号を聞き、全員合格などと言われたのかと不思議だった。

実はこの人は三商の校長今村直人先生で、荻窪の自宅へ帰宅の途中、たまたま声をかけてくれたのではない。ビックリしたが、このことだけでも、今村直人先生は温情溢れる立派な人物であつたのではないか。「この一言で願書受付番号は245番とはつきり記憶した。」

尚19期中学の入学人数は一組50人で6クラス300

人ぐらいたった。

◇今村直人校長先生の受験生に対する思い
誰でも知っている有名な話だが、今村先生への感謝の気持ちを込めてここに書きます。

戦後の混乱期に三商を希望するのは優秀な子供達だろう。「よくぞ三商を選んでくれた全員合格させよう」。このことは今村校長独自の強い思いであつた。このような立派な校長がいる三商へ入学し、勉強できたのは幸せだった。

完

三商の思い出

第19期 木下栄子

皆様お元気でしょうか？

十九期の集まりに二・三、回参加させていただいた事があり想い出話で楽しい時を過ごしました。

男子400人女子4名なんて「うそでしょう」と言われます。共学一学生だからでしょうね。

普通校から商業校の二年へ転校、とにかく自宅から徒歩で通学出来る処と体の為だけで親も決めたそうです。私の学校嫌いは、理解出来ない勉強から始まりました。

初めてさわる「ソロバン」に合わせるだけに・・・簿記、商業英語だったかしら、とにかく始めて聞く授業には目が廻るばかりでした。でも優しい方が何人も居ていつも教えて下さり、助手として下さって今もって感謝です。

先生方もこの落第生同様に悩まされた事でしょう。卒業させて下さり、就職まで出来ました。有がとうございました。

自分が大人になり子供のころを想い出すとおもわず「クスッ」となる事が色々ありますね。



昭和 24 年度 はじめての男女組
男子校だった三商に 4 人の女生徒が入ってきた！

私は一人っ子だったので「にぶい子で」従姉妹達にいつもかまわれていました。
修学旅行も参加したのは女子四名中二名でした。楽しく夜行列車で帰る途中も始めてお話しする友ができました、女子二名の為女性の先生が参加してください部屋も離れて別のお客の様でした。特別扱いにして下さり学校は大変だったでしょう。
今になって色々お手数をかけた生徒だったと申し訳なく思っています。
来春でも歩ける様なら十九期会の大関庵へ伺いたいと思っています。
思い出がいっぱいいあってあれこれ想い浮かべだすと、時間がすぐたつてしまい書けません。
字もパーキンソンの為書き出すと乱れて・・・ごめんなさい。
皆様のお倅をお祈りしてペンを置きます。
十一月二十六日夕

三 商 の 思 い 出

第19期 木戸隆吉

三商放送部

NHKより全国高校放送の実験校に指定され、昭和26年2月その発表会を行う。

当時の放送室は、校舎の入口より右手が事務室、左手に校長室、その前に放送部の部屋がありました。まだ小部屋でしたが放送器材は立派なもので学校の放送に適したものでした。

しかも戦火には会わず校舎共設備も整っておりまして。

昭和25年中頃、放送部ご担当の桜井定夫先生よりNHKよりお呼びがあり、全国高校放送部の実験校を都立三商さんに引き受けて頂き、その発表会を昭和26年2月頃お願いしたい旨がありました。今の小さなお部屋では、適さないので職員会議を開いて協議した結果、二階中央にある定時制職員室を解放し、今回の放送室に当て中を改装して昼間の放送部に利用することに決定しました旨の話がありました。早速家に帰り近くの出入りの大工さんに連絡をとって工事にかかり部屋の入口から右側順に機械室、アナウンサ室、放送劇室、会議室を作りました。部屋が完成して部員を募集したところ、なんと百名以上の応募があり、部員も内容の充実を計るべき練習、稽古に励み活気に満ちて来ました。

又私はNHKとの連絡を保つべく毎週土曜日に学校を出て、千代田区内幸町のNHKに通いご担当の佐藤教育長さんに面会しいろいろご指導を頂きました。又途中の話の中に「今日は良いニュースフィルムを映写しているから見ていってください」と言わ

れ、一般のテレビ番組より早く見ることができました。何回も通っていますと、受付の方も覚えてくださり簡単に入る事ができました。又建物の中を歩いていますとテレビスターさんたちにも出逢いました。

さて発表日の当日がやってきました。お天気も良くお客様も大勢いらっしゃいました。係が各教室のスピーカーの位置や、放送部の部屋にご案内し放送劇に使う擬音器をご覧いただき階段教室では、スライドによる投写をご覧になりますお客様が揃いました。

映写がスクリーンに出ますと私が出ました。「私が放送部部長の木戸隆吉でございます。お忙しいところご来校頂きまして誠にありがとうございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。」とご挨拶いたしましたところ、会場のあちこちから笑い声が



喜山倶楽部スナップ

聞こえてきたので、これは雰囲気の良いのだろうと
感じました。

続いて各担当者が約一時間かけて活動状況を発表
し、会は大いに盛り上がりました。終わりに今後の
放送部の役目として、レコード鑑賞、英会話、放送
劇の作成、講話の会、音楽の会等も考えて楽しい高
校生活を作っていきたいと締めくくり、この発表
会は成功裡に終了しました。

思い出の記

第19期 木村浩直

名簿を頂き有難うございました。

小生は疎開先から東京に帰り三商に途中入学した
谷口君と同じ早大を卒業しています。

又、小生の弟「木村利夫」が小生と同じ早大商学
部を卒業し東海銀行に入行し貴社とお取引頂いた
と聞いています。

カラオケは早大OBの仲間(十人程度)と亀戸の『の
んの宮永』という店で月に一度開いていましたが現



亀戸天神前ののの

在はコロナウイルスのため休会しています。

『のんの宮永』は小生の仲間が松屋デパートの役員
をしていた時の部下が脱サラして開いた店です。カ
ラオケは早大OB会(稲門会)と言いますが千葉
県内だけでも23の稲門会の支部があり小生は習志野
稲門会に所属し部会が十部会程有りますが小生はカ
ラオケ・ゴルフ・ウォーキング各部会に入っていま
すがいずれもコロナのため休止しています。
残念ですがワクチンが出来てコロナ騒動が治まるま
では難しいのではないかと諦めています。
今後ともよろしくお引き回しください。

思い出の記

第19期 木村滋男



小学校の時、集団疎開か
ら縁故疎開に変わり、その
片田舎で都会っ子と毎日の
様にいじめにあった。六年
生の時終戦になり、早く東
京の中学校に行きたいと父
に話し三商に入学することが出来た。又、朝礼で校
庭に集まった際に小生は後ろから二番目で背が高
かったがそれから高校まで182センチ迄伸びた。
小岩駅から10分のところの洋服屋の二階、四畳半一
間を借りて下宿生活をし、通学した。

休みの日は勝手口裏の狭いところでタライに水を
入れ洗濯板で擦りながら洗濯をし、午後には小岩駅
の闇市におかずを買いに行き、翌日の弁当をハンゴ
ウでお米を磨ぎ電熱器で炊きながら、ミカン箱を机
代わりに勉強をしていた事等が思い浮かぶ、又、朝
の通学時間は満員で乗れず省線(現在のJR)の



卒業45周年 都立三商十九期同窓会 於 喜山倶楽部 平成9年3月29日

最後のデッキにぶら下がりながら小岩から錦糸町
まで通学した事、チンチン電車で不動尊前に行く間
に一回だけ運転士さんが洲崎から深川不動尊迄運転
をさせてくれた事が記憶に今でも残っている。

又、洲崎の奥に住んでいる友達のとこに遊びに
行った帰り、夜道を歩いて帰る途中に赤線があり、
洲崎の大門迄出るのに女郎さんに引っ張られ難状し
た事、翌日友達に話し、次回から友達が下駄ばきで



門の外まで送ってくれた事などが思い出される。

中学二年の時に大戸君からバスケットボール部に入る様に誘いがあり、バスケットボール部に入部出来て嬉しかった。同期に鈴木太輔、山口平吉、大塚章吉、加藤勝美、西田郁夫、金原章君らがいた、(現在生存者は二名) 当時は講堂に進駐軍がリングを作り、昼間練習し、ボールをそのまま置いて行き、そのボールで放課後練習をした事が。本格的な練習を始めたのは高校になって体育館で。親が高校になって初めてバスケットシューズを買ってくれて嬉しかった事等が思い浮かぶ。

中三の時には父親が面来先生と呼ばれバスケットをするのも良いですが、もう少し勉強する様にと話があり、家庭教師を付けて勉強した。その後の試験で良い成績をとり、やれば出来るので頑張ってもらいたいと話があった。

高校一年の時家族が東京神田の旅籠町に引越し一緒に住む様になった。当時は待合の町で夕方になると家の前に高級車が道に何台も並び、夜となると芸者と三昧の音色が鳴っていた町だった。(現在は町名も変わり外神田一丁目になり付近は電気街になった)

又、高校二年の時にバスケットの関東大会が長野県であり、東京代表に選ばれた際に全生徒が校庭に集まり応援団のもと我々は台の上上がり出陣の応援を受けたが、結果二回戦で敗退に終わった。又、三年時の国体が広島県であり、スポーツ新聞の記事に三商が東京の代表の候補にあげられていたが、東京予選会の準決勝で墨高との試合の際、ハーフタイム迄は勝っていたが後半が始まって暫くして笛が鳴り、小生が監督から休みの時に交代する様に告げられ出場していたマネージャーがメンバー交代を連絡するのを怠り、反則で墨高にフリスローが与えられ再開したが結果一点差で敗退になった。

当時、実業団の日立製作所の長島さんに監督をお願いしていたが、試合終了後、何も言わず黙って立ち去って行かれた印象が今でも残り、小生も当時自分の責任を強く痛感させられた様な気がする。

七十年前の事で記憶も曖昧な気がする。又、就職組から大学に入学出来た事が凄く良かった。旧制中学から途中新制の高校に変わり六年間三商で過ごせた事が良かった。

三商の思い出

第19期 小西照男

三商へ入学し一年二組、先生は理科を教えていた三島先生だったが二学期で事情があり退校した。次の先生は顔が赤いのでヨーチンとあだ名の先生だった。二年、三年は組替えなしで中学を卒業した

高一は八田先生でバツタと言うあだ名だ。三年の時野球をよくやった。あの当時では珍しい確りしたユニフォームに皮のグローブをして試合をした。

三商の先輩で大塚さんと言う背が高く頭のいい人

で、この人に教えられ、あちこち試合に行った。墨田区の若宮公園で三商の中山峯男や正井伸也のチームと試合をした。その時の写真は中山峯男が持っている。俺たちのチームは強いチームだった。千代田区では殆ど負けなしで、中山、正井のチームと何度も試合をしたが、一度も負けたことがない。細田注(中山は反対に小西のチームに負けたことはない)と言っている。

三年の時、前田健一と一緒にいた。頭がいい奴で、家が須田町の電車の停留所の前にあった。よく彼と一緒に、不動尊前まで一本だった15番の電車に乗り三商へ通った。彼は残念ながら早く亡くなった。三年の時は田部井孝則先生に教わった。柿の木坂に立派な家を構えていた。

田部井先生から学校の授業で何を教わったか記憶は少ないが、株の売買やそのほかの遊び方を教わった。田部井先生とは卒業してから、家に時々遊びに行った。田部井先生を慕う19期生達が親しみを込めて「孝則会」と命名した。名付け親は丹治朝雄である。ところが異論あり小西照男は自称「俺が田部井先生と一番親しくしていた」当然「孝則会」は自分がつけた。このほかにも「俺が俺が」がいる。「俺が俺が」が出るのは、それだけ田部井先生の「人徳」からし



三笠宮とツーショット

むるところ」であり、名付け親は誰でもいいのでは。尚田部井先生は三商から都立第一商業高等学校第二本課の校長に着任した。

前田は新宿の（新しくできた頃の）高島屋に勤めた。深谷吉男とは学校に在る間は付き合いがなかったが、ある時浅草のバーでバッタリ逢った。深谷のグループはいい調子で騒ぎ、ビールで乾杯を繰り返していたが、早速こちらのグループと意気投合、一緒にになって「ドンチャン騒ぎ」で乾杯を繰り返した。この時が縁で深谷とはよく飲み歩いた。深谷はあの当時からビールを持つ大した資産家だった。こんな縁から、深谷も孝則会のメンバーに入って田部井と親しくしていた。浦島敏彦（同期）とは、直接の付き合いはなかったが、彼の妹と私の妹が、台東区の西町にあるお茶の先生に習いに行っていたことがあった。

私の家は紅葉屋と言う印刷屋だ。親父もお袋（明治40年生まれ）も夫婦養子だった。親父が岐阜から出て来て印刷屋を始めた。若い衆が何十人もいて飯は箱膳で皆揃って飯だった。勤めていた印刷屋が木場にあつたので木場の得意さんをもらって独立した。私は木場によく仕事をもらいに行つた。原稿を東木市場からもらい先生に届け、先生が原稿を書き直し紅葉屋で印刷した。

先生は春日町あたりの古いアパートで、パートを使いながら作文していた。よく原稿をもらいに行き東木市場に届けた。木場は丸宇（宇佐美）へもよく行つた。丸宇は同期で区会議員になった川名省三が修行した老舗で今も盛業中だ。

私は疎開から帰って来たら、家は丸焼けで、一時（いつとき）小島町二丁目に住んだ。増田も小島町に住んでおり小島町の小学校六年の時から一緒だった。

た。三商へも電車と一緒に通った。

親父は戦後落ち着いてから、今の外神田へ本建築の家を作った。私の代はカネボウ、ソニーがメインだった。立教の同期がいて、いい商売をさせてもらった。石原や丹治とも取引があった。

立教では野球部に入つたが肩を壊して辞めた。立教の同期に農水大臣だった青森の田名部（たなぶ）がいた。「たなぶ」と呼ばず「たなべ」と呼ばれアイスホッケー部の選手だった。

アイススケートの竹内己喜男の親は、古い話だが外神田五丁目（元佐久間町）に住んでいた。大正時代に秋葉原の駅が出来るので、土地を収用され替地に神田区へ移った。

竹内の家は練堀区（下谷区）ガードの向こうの、昭和通りを越え一本入ったところ、昭和通り左側だ。私の家も蔵前通り（中央通りの交差点から一本入った北のところだ）

◇竹内己喜男

竹内は芝のスポーツセンターができた頃から、アイ



竹内己喜男アイスダンス

ススケート（フィギア）に夢中になり、「好きこそもの上手なれ」との熱心さと、生来の運動能力の高さもあり、上達は早く技術も上がってきた。「人間

一つことに夢中になるとその道を究めなくなる」のが本能である。彼は、三商の勉強？とアイススケートの上達に励み、三商から明治大学のアイススケート部に入学し益々精進を重ねた。しかしフィギアスケートでオリンピック選手になるほどの選手は、天才中の天才であり、それこそ生まれたときからスケートに親しんだ人種ばかりだ。竹内は試合のたぐいに残念ながらトップには届かず涙を吞んでいた。ところが、ところが、ところがある。幸運にもアイスダンスと称する新しい種目が新設されると、竹内の性にあつたのか、たちまち「アイスダンスの技術」を習得し、アレヨアレヨのうちに、アイスダンス全日本のチャンピオンに上り詰めた。正に日本中を沸かせる快挙を成し遂げた。

オリンピック選手になり世界中を転戦する有名選手となった。またスポーツ宮様として有名な三笠宮（ヒゲの宮様）との大の仲好しであり新聞紙上をにぎわせるほど交流が深かった。

このように、竹内己喜男はアイスダンス種目ができからチャンピオンになった。奥さんはマラソンの選手円谷幸吉いとこだった。現役時代には、数々の国際交流試合に出場し好成績を収めた。

選手引退後も後進の指導育成で氷連の活動に深くかわつていた。その彼が、軽井沢の別荘で静養後自宅で急死した。突然のことでご家族はもちろんのこと、我々19期会の面々も、「竹内が」と絶句した。惜しい友を亡くした。誠に残念至極であるがこれも天命として、心からのご冥福をお祈り申し上げます。尚葬儀には三商19期会のメンバーは大勢で焼香し生前の彼の偉業をしのびご冥福を祈念した。

◇注記 竹内己喜男没 平成25年5月18日 79歳

敬称略

三 商 の 思 い 出

第19期 砂村俊雄

昭和21年4月、二人の兄の勧めで都立三商に入学しました。

入学試験はなく、勿論無試験の扱いでした。入学生徒は400名余りにて、私の担任は田部井先生でした。

最初は鳥越にいる万年重信君と一緒に蔵前橋を渡り石原一丁目から都電23番に乗り越中島から商船大

学前を通って登校していました。結構徒歩時間がかかり、その時間にいろいろ話をし

て楽しい時間もありました。二年生となった時、星野先生から簿記の手ほどきを受けました。

私の家業は豆腐屋で、当時、油揚げやがんもどきを築地の市場に卸売りにしていました。

その時、販売単価が「小売り」と「卸売り」の価格差を先生に質問しました。

それについて、丁寧の説明してくれました。このことが今日につながっていると思われま

す。簿記会計の基礎を丁寧に指導してくれたものでした。

当時、根岸は英文タイプ部の部長であり、安藤は社会科研究部の部長でした。牧野は化学の造詣が深く色々な事を学びました。

高校2年の終わり頃、岡野静夫と相談して「簿記研究部」を設立しようかとの相談がまとまり、設立の運びになりました。幸い2年生や1年生の部員も集まり、夏頃には研究部の形が整い、それらしい活動もできるようになりました。

最後になりますが、昭和27年1月ごろ、今村直人校長の肝煎りで、全国商業学校長協会主催の第一回簿記検定試験が開催されることになりました。私は3年生ですから当然1級を受けました。幸い満点合格の榮譽を受けました。

これが私の三商時代の最大の思い出です。終わり



第199回 三商十九期・懇親会 平成30年度9月19日(水曜日) 於 大関庵

思 い 出 の 記

第19期 高橋唯夫

疎開から戻ってきて、三商の中学への入学は、三商での兄の友人古暮先生の紹介で、二年途中に清田先生の面接試験を受け八田先生のクラスに編入され

た。

高校では木戸隆吉君とクラスが一緒だった。彼は生徒会長に立候補し当選、生徒会長になった。高校三年では、体操の先生で、バレー部の部長宇梶先生が担任だった。

二年の時、矢島先生に紹介され、大久保徳一君他と、文部省へ書類整理のアルバイトに行った。

アルバイトでは横山町の繊維問屋へも大久保徳一君と一緒にいった。彼とは仲が良かった。

卒業後は伊藤萬に入社した。

新聞配達は3年間続けた。新仲見世は配達区域で、洋品店フクヤの島村治伸君とはよく顔があった。

アルバイトで修学旅行の費用を稼ぎ日光や長野志賀



熱海初島リゾートホテル前

高原の温泉地へも行った。

家の前の観音うらを抜ける通りにアンコ屋があり、その並びにあった自動車部品の店に同期の森君が働いていたとのこと。

荻野元平君とは、高校1年の時同じクラスで仲が良かった。荻野の家は、人形町の時計屋でよく遊びに行った。N響のバイオリンの弾きメンバーであった先生についてバイオリンを習っていた。

日比谷NHKのスタジオで月一回N響の演奏会があり、荻野の母親と自分（高橋）との三人で演奏会を聴きに行った。

大関庵

19期会が毎月歩く会と大関庵での同期会が行われていることは、最初の2～3年は知らずにいたが、根岸駿から教えてもらい大関庵の仲間に入った。

卒業の年3年の時、大久保君と共に仲の良かった同級の高野正行は佃島に住んでいた。彼は東洋レーヨンに入社した。

自分（高橋）は、現三菱マテリアル（当時は財閥解体の余波で三菱を名乗れず社名は「太平鋳業」であった）。三商の同期生から、根岸駿、砂村俊雄、仲村英夫、瀬川昭雄、自分（高橋）の五人が受験し全員合格した。同期会としてよく一緒に飲みに行った。

田中滋君は鳥越の洋紙問屋、田中君の家へは荻野君、谷口君小野君等とよく遊びに行った。田中君の家で百人一首をよくやった。小野正実が読み手、当時小野は小網町に住んでいたので近所だった。小野正実を読むのが上手だった。

太平鋳業は、当時大手町にあり鎮目忠正君（進学して日本郵船）とは、会社が近かったので昼休みに偶然一緒に丸ビルの地下の食堂で昼飯を一緒にしたこともあった。

思 い 出 の 記

第19期 谷口博三郎

三商時代は記憶が薄れ思い出せないが、細田が女の子の役で劇にでたことは覚えている。

鳥越の洋紙問屋の田中滋の家に小野、高橋唯雄、荻野がよく集まって百人一首で遊んだ。この時高橋唯雄が今の奥さん（旧姓小川さん）を連れてきたことがあった。荻野は早稲田の夜間部へ進んだ。

木村浩直は早稲田で一緒、福井の商社で副社長まで務めた人物だ。同期では日銀部長の藤井康三郎などと共に出世頭であり同期の誇りでもある優秀な人物である。

彼は、門前仲町の東天紅での同期会に参加し、二次会で高橋の「琴」へ連れて行ったことあった。彼は、カラオケを唄わせれば一晩中歌えるほどのレパトリーの持ち主、何事にも優れている男だ。

私（谷口）とは仲が良く、早稲田の数多い稲門会のなかで、亀戸鹿取神社の参道にある「のんの宮永」（オーナーも稲門会）に毎月集まっている。（今はコロナで中断しているが）そういえば、19期散歩会で「のんの宮永」の前を通ったことがある。

自分は、今年は米寿だがコロナで何もできず「じつ」としている「しかないが、次の卒寿（90歳）には海外で祝おう。と楽しみにしている。「コロナが終息したら、そのうち一杯やろう細田頑張ろうよ」。

◇浅草橋、豊海橋

大村彦次郎が最良にしており、よく連れて行ってもらった浅草橋の夫婦羅屋大黒屋は美味しいが「ころも」が厚い江戸前なので、大村には悪いが「自分は好きじゃない」。天婦羅は関西風の薄い「ころも」に、

塩だしが好みだ、細田もそうだろう。うどんも同じ薄味好み、胃袋の弱い人は関西風が手ごろだ。

◇大料亭柳光亭

突き当りに大川（隅田川）と日本橋川に面したところに、柳光亭という大きな料亭があった。幼馴染の料亭の息子と畳千畳敷（500坪）の座敷で、「かくれんぼ」して遊んだこともある。

三商時代にもう一つの思い出は、吉住先生に連れられて、小野、田中などと夜行列車で一晩掛かる石打ヘスキーに行った。中学3年の頃は汽車に乗るのが好きだったので夜行も平気だった。

八田先生の担任の時は、小西、高松登（伊勢屋）石



三商19期 散歩会 令和元年12月19日（木曜日）於 石川酒造

原博などと同じクラスだった。石原は秋葉原で松下電器の代理店を確りやっていたが、文京区にマンションを建てて引っ越した。

柳橋の店は「隣の花火や」が火元の「貫い火火事」で全焼した。後始末して駐車場にしているが、固定資産税が高く、ランニングコストを稼ぐだけ、でいい商売ではない。浅草のマンションに引っ越して落ち着いた。

◇大村彦次郎

早稲田で一緒だ。池波正太郎の小説に「両国橋を渡るとほどなく蕎麦屋がある」との一文がある。この蕎麦屋が大関庵をさしている。大村は池波を連れて大関庵に来た。池波正太郎の色紙があった。 完

思い出の記

第19期 高野照三

ご連絡ありがとうございます。

書きたいことは一杯ありますが、どうしても定時制課程での三商新聞発行がすべてでありますね。「夜間三商新聞」を何記か同封いたします。参考にしてください。

昭和24年3月に併設中学を卒業して就職しました。同期は荒川和雄氏と一緒に入社し、以来40年間一学校以来の友人関係として会社で営業と経理をして参りましたが荒川氏は残念ながら去年亡くなりました。他の友人達の記事も少し見えます。先生たちや先輩や同期の人達の記事もあります。

卒業までの昭和21年3月、昭和28年3月までの7年間三商に在学した事になります。青春時代総てです。現在も昭和28年3月卒業生として定時制5期の同期生が集い「伍輝会」ごきかいとしてコロナ禍までの

奈良を訪ねて

高野 照三



毎月の定例会を銀座、有楽町、新橋辺りで会食、カラオケ等を楽しんで居ります。

小生が病気になるまで手足が少し不自由な為、最近はお掛けしていませんが、同期の森莞氏や渡部泰博君とは交流しております。

三商新聞を何部か同封致しました。ご参考にしてください。

乱文乱筆にて失礼いたします。

2020・11・26 高野照三拜

三商の思い出

第19期 中山峯男

集団疎開

住所は墨田区東駒形2-5-9。このあたりには、三商の先輩後輩達が大勢いた。正井伸也、白井誠一などだ。家族は父母兄姉と妹(11歳) 自分は小学校五年の時で六人家族だった。

戦争中千葉県の多古に集団疎開していた。男女五十人と寮母さんと先生の集団で逗留先はお寺の修身道場であった。一つ年上の姉は六年生で、姉弟同居の集団生活で何かと便利だった。

しかし姉は六年の卒業式を終え東京へ帰ることになった。自分(峯男)は三月十日が誕生日(昭和九年)なので誕生日を兼ねて、外泊の形で「一緒に来い」と家から言われ、姉と同行して東駒形の家に帰宅したのは三月三日だった。

3月10日東京大空襲

ところが東京へ帰ると、連日のように空襲警報のサイレンが鳴り響き、米軍の焼夷弾投下による空襲があり、各地で被災が相次いでいた。三月九日夜間に大空襲が始まった。B29が200-300機の大群が大量の焼夷弾を投下したので、すぐに火災が始まり忽ち家の周囲に燃え広がった。折からの強風におられ、手の付けられない状態となってしまった。縁日通りに焼夷弾が落ち火の手が近づいてきた。

避難場所は警防団の申し合わせで、横川小学校へ行くことになっていたが、すでに学校は満員で入れないと聞き、中山家は親と姉を残して隅田川方面へ逃げた。姉はけなげに家に水をかけて家を守った。

塩入製材所の先を右に曲がり隅田川公園へ行く。途中一休みして様子を見ると西、南、北と空は真っ赤に燃えていた。東側のみが空が暗く火の手が廻っていないことがわかった。

風速50メートル? 強風は避難民のリヤカーが荷物を

吹き飛ばされ、その荷物に火が付き転がって火の玉となつて飛んで行った。正に地獄のようだった。区役所通りには、満載した荷物に火が付いたりヤカー、馬車、荷車にしがみついた人々は荷物と一緒に強風で飛ばされてしまった。浅草方面は火勢が烈しく、言問橋を渡って逃げてくる人々でどこも一杯だった。火の粉は隅田川を乗り越えて対岸に追つて



↑ 焼野原となった東京
3月10日大空襲のあと 隅田川の向こう
本所江東地区を望む。右上は新大橋

来た。牛島神社の鳥居の前にすでに焼け死んだ人が大勢倒れていた。翌日には鳥居の前に死体が山のようになつていた。焼夷弾だけで丸焼けになった犠牲者で、正に地獄絵だった。朝六時頃には、艦載機がラムンが偵察だけで飛来したが、なんと遊び半分か、残虐にも焼け跡にいる被災者に機銃掃射を仕掛けてきた。

牛島神社の人が「炊き出し」をしてくれた。両国の先までは、殆どなにもない焼け野が原になつてしまった。東駒形の人は亡くなった人が少ないが、石原町の人は被服廠に避難したために殆どが焼死した。写真―焼け野が原

三商へは中一の二学期から転入した。それまでは親父の出身地茨城県常総線の取手からの鉄道の終点の下館市だ。沿線にある下妻一中は名門校として知られ、入学が難しいと言われていたが、自分は入学を目指し毎晩11時〜12時迄勉強し合格した。新入生は女三人男四人の全部で七人のクラスだった。名門校下妻一中で一学期だけ学び、二学期から三商に転校した。兄貴二人も東京へ帰京し叔父が所長を勤める



コンドルズ (矢印中山峯男)

三商へは中一の二学期から転入した。それまでは親父の出身地茨城県常総線の取手からの鉄道の終点の下館市だ。沿線にある下妻一中は名門校として知られ、入学が難しいと言われていたが、自分は入学を目指し毎晩11時〜12時迄勉強し合格した。新入生は女三人男四人の全部で七人のクラスだった。名門校下妻一中で一学期だけ学び、二学期から三商に転校した。兄貴二人も東京へ帰京し叔父が所長を勤める

大関守とは電車は23番で一緒に通学した。近所に藤村、白井がいた。白井は頭も良く立派な男だったが家庭の事情から、酒に溺れ、暴れまわって早死にした。

野球は中学時代に少年草野球では、コンドルズと名付けて強いチームだった。同じ東駒形で正井は三丁目、中山は二丁目、コンドルの監督は大塚謙蔵、三商の二年先輩で小西のチームの監督までしている野球マニアだった。

この当時三商のバレーボールは関東代表だった。自分(中山)は三商の野球部に入り一時エースを務めたが背が足りないとで大成しなかった。

当時の三商はバレーが強かった。同期に小峯がいた。先生は宇梶公平だった。少年野球の話に戻ればコンドルズは強かった。(ダイヤモンドズと名前を変えた正井に失礼)

伊藤昭雄のチームと試合をした。彼はハンディを乗り越え投手を務めていたおり、彼のチームは結構強かった。バンド作戦で勝つこともあった。

中学三年の時、担任は山本先生カロチンで、正井と小西と一緒にいた。卒業後スキーに夢中になり七名ぐらいでクラブまでつくった。

私の転職

第19期 中村三郎

私の三商在学中は勉強嫌いで学業成績は下から数えるほうが早かった。色々な事があり数年後に亡父の職場の上司に紹介されはしけ運送を主体の港運会社に入社することになるが、あまり深く考えないままその会社に入社することになる。最初の就職だった。

世の中東京五輪前ですごく景気の時代だった。この会社もホクホクだったようだが私にはおこぼれはなかった。五輪会場の建設、道路の新設等々、それに必要な鋼材が大手製鉄会社から内航船で東京港に輸送されるが既に需要家の倉庫が満庫の状態のため内航船が港で荷を下ろすことが出来ず、長期滞船になり、加えてはしけも倉庫代わりとなる異常事態となる。

港運会社は、はしけが稼働できなくなり同業各社も同様に営業に支障を来した。

はしけ主体の会社は零細企業が多く稼働できない事態に何とかならぬかと関係先に陳情するが一向に良くならなかった。そうこうするうちに五輪会場も完成し五輪が開催され、そして閉会された。

数年して港運業界に厳しい寒風が吹き荒れはじめた。護岸が整備され岸壁に直接本船が接舷しての港湾荷役の使命は終わったなど私は思った。

海上コンテナ荷役がどんどん進み正にとつて変わってしまった。25年勤務したが、私は転職すべきと深刻に考えた。はしけ主体の港運会社が廃業・転業の道を歩むことになる。(その頃私は多忙の日々だったが、いつか役立つだろうと安い頭を振り絞り国家資格の衛生管理者資格、数年に社会保険労務士資格を勉強し合格することが出来た。(ちなみに後者の合格率は8%の由)はしけの修理や新造する造船所も廃業が相次ぎ故人になってしまったが同期のS君も親から引き継いだ造船所だったが廃業した。後年に発生した銀行の倒産騒ぎ、国の免許があるとの理由で国から手厚い保護を受け現在の姿の銀行業界になったようだ。港運会社も国から免許を取得して営業活動しているが、国からの保護は一切なく放り出されてしまった。私は経営者ではなく一使用人



第179回 三商十九期・懇親会 平成29年1月19日(木曜日) 於 大関庵

だから。

港運業界の経営陣と一緒に心中することができないので昭和56年秋にある知人を訪ね、転職先を紹介していただけないかと、厚かましいお願いをした。

少し待ちが一年経ってしまったが、旧労務省の外部団体を紹介され労働災害防止協会に転職することができた。跳び上がったくらいうれしくて人生最高の喜びだった。

我が国には六大港のほかに約80の指定港があるが私は先に取得した資格を活用して労働災害防止活動に月に二回ほど全国北海道から沖縄まで各港を巡回して、災害防止の指導に当たった。充実した仕事で楽

しかった。

港運業が低迷し廃業・転業がささやかれる中でのサラリーマン生活はとても苦しく、いつ辞めようかと日々思うことばかりだった。職業の選択は難しいものですね。

はしけ運送業が海上コンテナの出現で多くの、はしけ労働者が人員整理されるが会社の一労務担当者として担当することになるがとつらかった。16年ほど勤務した協会を定年となり退職した。職場を紹介してくださった知人の御恩は決して忘れることができない。

思い出の記

第19期 中野 巖

入学式余談

昭和21年4月、東京深川越中島八番地(現3丁目3-1)都立三商の校庭で我々新入生の入学式が行われました。

式が終了した時点で回れ右の号令があり、一同回れ右と同時に、両端の列から左右に広がって円弧の形になりました。

ややあって、右手広報校舎の昇降口階段を数人の人が、各自楽器を持って降りて来ました。

トランペット、トロンボーン、大太鼓などです。一列になって歩いて来て、我々集団の右横を通り中央付近で止まり、数メートルの間隔で向き合う形になりました。そしてうち一人の指揮で演奏が始まりました。

私は一瞬滑稽さを覚えました。「これは、我々を新しい仲間として歓迎してくれているのだ」と気が付きます。と胸に熱いものがこみあげて来るのを感じ



三商19期・散歩会 平成27年3月19日（木曜日）於 東京国立近代美術館工芸館

じました。
やがて演奏が終わり、演奏者達は来た時と同じく、
無言のまま、もと来たほうへ一列になって戻って行
きました。

今にして思う時、あの日演奏されたのは「我らが
母校三商の校歌に間違いない」です。

以上

在校時代の出来事・思い出

第19期

中野貞三 タダカズ

私たちが東京都立第三商業学校に入学したのは、終
戦の翌年昭和21年4月である。殆ど焼け野原とな

り、入学したころはあちこちにバラックが建ちはじ
めていた。私たちはその様な中、小学校（当時は
国民学校）を卒業し都立三商に進学した。交通機
関は国鉄総武線で小岩（両国、都電二三系統（柳島
（月島）で緑町一丁目から越中島と乗り継いだ。交
通事情は悲惨なもので、総武線は確か六両編成だっ
たと思うが、十二歳の自分たちは大人に挟まれ身動
き出来ないどころか息も出来ず、このまま死ぬのか
という思いをした。ある時は早く出て下り線で津
田沼迄行つて座席に座つて乗車したり（それでも座
席に立たされたり）、窓からの乗り降りをしたりし
た。

当時は二八系統の錦糸町堀（東京駅（都庁前）の電
車は復旧しておらず、両国からの系統しかなかった。
入学式の日母親と小学校の先生だった未至磨先生
と（三商の先生になられていた）に連れられて学校
に行つたが、来る電車、来る電車満員で乗れる状態
ではなかった。歩きましようとの一声で学校まで歩
いた。下校時もクラブ活動（珠算部）が終わると四
時三十分頃で、丁度佃島の石川島重工業の職員さん
の退社時に当たり、電車が相生橋を渡つて来るとき
は遠目ながら丸く太鼓の様に見え（電車の中は一杯
で外側にぶら下がっている）、越中島は通過して行
く。仕方ないので殆ど毎日両国迄歩く（駆け足）連
続であつた。帰りの国電もこれまた混雑で車外の連
結器にも乗れなく両国で二三台待った事もあり、家
に帰り着くのは九時を過ぎる事も間々あつた。その
内二十八系統錦糸堀（東京が復旧したが（不動前で
乗降）、雨、雪の日は橋を乗り越えるのは傘を差し
て歩いている人の方が早い位であつた。大雨が降る
と豊住橋の所で線路が水没、運転打ち切りとなり其
処から学校迄徒歩で行かざるを得なかった。（教室

は空襲時付近の人々が住み、煮炊きをしたりして壁
も床も汚れており、先ず清掃から始まつた。まだ軍
隊に徴用された先生方は復員していない方も多く、
教員不足で先輩達が動員されてもいた。杉原先生は
二十一年十二月に復員されたが、珠算は古暮先生や
井口さん戸張さんといった先輩達が来られていたと
記憶している。又、当時全国的に有名だった珠算界
の大御所川村貫治先生もおられ夏期講習で習つたこ
ともある。

雨天体操場は食糧倉庫となつており、商船学校に駐
留していた米軍は戦車で校庭のアスファルトを剥が
したり、講堂でバスケットボールをしたりしていた。
昭和二十三年学制改革で、私達の校名は「東京都立
第三商業新制高等学校併設中学校」と何とも長たら



第1回 散歩会

しい校名になり、以後後輩の入学は無く高一迄最下級生であった。窓ガラスは割れ、雨が吹き込み冬は雪が吹き込む状態で、ガラスがないので板で塞いで凌いだ。

(同期の細田君の会社が請け負ってくれたとの事)

高校進学時、多くの者はそのまま全日制に進学したが、私達三十から四十名は定時制に入学し昼間は就職、或は自営に従事した。

定時制では四年間在学(従って三商には七年通学)、ここでも通学の悩みが一勤務先大手町へ不動前は通学定期、帰りの錦糸町までは通勤定期になるので止む無く東京駅回りで帰ったが、夜中十二時を過ぎての帰宅が常であった。授業中で思いつきに残るのは停電がしばしば起きカーバイドの暗い明りで勉強した事で、何とも臭くて堪えられなかった。正に「蛍の光窓の雪」であった。又、寒さ凌ぎはストーブを焚いていた。

卒業後二十年程たち十九期会の行われているのを知り、安藤日出男君や河野正敏君藤井康三郎君、小林邦夫君等を通じ、銀座アサヒビル、築地すえひろ、市ヶ谷グランドヒル等の十九期会に出席させて貰った。そうしている内に定時制に学んだ私達も中学三年間机を並べて学んだ仲間である事から、十九期会にも合流させて貰いたいと申し入れ快く承諾を得て同窓会名簿にも掲載できた。(銀座東急の会で紹介)平成十三年同期の木戸隆吉君が同窓会長に就任するや、事務局を頼まれ引き受けた。それまでの会計の不明朗さを一新、同窓会法の刷新、充実に努めた。(つもりである)

何よりも同窓会報の第一面を従来の在校校長の挨拶文から同窓会長の挨拶文に変えた事、提出された原稿について私の知るかぎり、修正をさせて貰った事

等がある。

こんなこともありました

「昭和二年 初めてのアルバイト」

先輩の経営する印刷会社で十日間通い始めての報酬を頂いた。

云われるままに紙を裁いたり皆さんのしている活字拾いを見ながら小間使いをしたと思う。

紙の裁きはこの時に覚え今でも役に立っている。手の平や指を紙で切った事を覚えている。

「昭和二年九月 カスリーン台風」

関東地方を襲った第九号台風で我が家は床下浸水で済んだが、小岩でも少し離れた場所では床上浸水、新小岩では駅前の家では二階との境迄水没していた。

総武線は小岩と新小岩の間で路床が流され不通となり、十日間通学できなかった。

「昭和二年十月 臨時国勢調査」

国勢調査は五年毎(西暦の0と5の付く年)に行われるが、昭和二十年(1945)戦時中で行われなかったで、この年に臨時調査として実施された。江東区の集計作業に珠算部の連中が動員された。因みに調べてみると総人口は七千八百万人であった。外地からの兵隊の復員は続いていた。昭和二五年の本調査では八千三百万人になった。

「昭和二年 雨中の箱根山中行事」

中学三年時、杉原勇太郎先生の担任だった我が組は雨の中、箱根の山中を湖尻まで歩いた。

どこを歩いたかは覚えていないが、親父に借りたレインコートもびしょぬれで肌着迄ズブヌレでかなりの強行軍であった。その後の登山の糧になった。

「昭和二十四年二月 珠算大会で芝商業を破る」



三商十九期有志お見舞 平成26年1月28日(火曜日)於 森山リハビリテーション病院

中々勝てなかった芝商業に団体戦で勝った。(中学の部)

メンバー 中野、高浦、宮下、白井、牧野の合計得点一八六十点(二〇〇〇点満点)

この内全日制へ進学二名、定時制へ二名、退学一名で高校に繋ぐ事はできなかった。

「高校時代 定時制での珠算部」

定時制全生徒の三分の一の三七〇名の部員を擁し、午後九時過ぎの放課後、十時まで部活動をした。部員の練習教材を作る為、日曜日には学校の事務室で謄写版(ガリ版)を切った。

対外競技にはよく昼夜合同で団体を組んで出場した。その頃の昼間部のメンバーは17期小谷中、18期

浦島、20期柳沢、21期浅野氏等で、定時制からは中野、大滝で編成した。

珠算日本一の紹介

中野貞三君は、大和銀行勤務時代に、珠算日本一の栄冠に輝き「若き計算機」として大和銀行70年誌に掲載された。記事の中にアメリカニューヨーク・ヘラルド・トリビュン紙（現在のニューヨークタイムズ）に「人間計算機」としてアメリカまで紹介された快挙であった。「三商19期思いの日記」編纂に当たり同君の栄誉を讃えるとともに紹介する。大和銀行70年記念誌昭和63年11月刊第一部第二編当行はクラレ、日本生命ほか14社と共同で日本民芸館に出展参加した。これは万国博覧会終了後も、万国博記念公園内に、「財団法人日本民芸館」として、一般の観覧に供されている。

若き計算機珠算日本一の栄冠
当行行員中野貞三は、昭和29年5月16日、日本商工会議所主催「第8回国民珠算競技大会」において優勝し、珠算日本一の栄冠に輝いた。この大会には各都道府県から選抜された一般293名、学生493名の選手が参加した。中野と栃木県の商業学校高校生の2名が見事に600点満点を獲得したのである。

その翌年3月10日、ニューヨーク・ヘラルド・トリビュン紙は、彼を21歳の「若き計算機」として大きく取り上げた。当時の米国では電気計算機が普及しつつあり、日本市場におけるそれと珠算の関係に関心が持たれていたのである。

彼は、上記の大会以外に、大競技大会である発祥地（京都）、浜松の大会でもそれぞれ2回優勝している。また、28年と32年には、全国珠算10傑の第一位に選

ばれた。

中野が珠算を始めたのは昭和21年12歳の時であった。翌年からそれに熱中し、毎日5―6時間、休みの日には10時間練習した。自らのタイムを記録し、それを破ることをたえず心掛けた。各種対抗試合にもしばしば出場して腕を磨いた。

彼は割り算を最も得意としていたが、珠算能力の優劣は暗算力に負うところが大きく、暗算には特に力を入れていた。その計算能力は、銀行の日常業務の上でも非常な威力を発揮した。取引先から多数の小切手を集金した際にも枚数金額を猛スピードで計算した。昭和29年、東京銀行から馬喰町支店の引継ぎに赴いたが、日計表を瞬時に精査し、先方に驚かされた。中野は昭和34年まで現役の選手であった。その後わが国ではコンピュータや電卓の普及により、珠算の地位は、以前ほどではなくなったが、彼は今でも、街を歩くとき、看板に書かれた電話番号どうしの掛け算を行い、珠算能力の維持に努めている。

英文記事

Japan Clings to Abacus As Its Adding Machine

By Dorothy Brandon
Special to the Herald Tribune
TOKYO, March 9.—(Tribune) A twenty-one-year-old employee of the Daiwa Bank here, who can work problems faster than an electric adding machine on the 155 wooden abacus, and on the electric adding machine, are for special talent, he said.
Electric Machines on Order



思い出の記

第19期 花村晃次

戦中は猿江恩賜公園のそばの菊川一丁目に住んでいた。本所の豎川にある中和小学校に通った。小学校の同級生には、絵面敬三や木田裕康（立川メガネ屋野球では左ピッチャー）達と一緒だった。

戦時中は千葉県の鴨川に疎開していたが、三月十日の東京大空襲の日に、たまたま東京にいて被災した。焼け出され勝浦に疎開し地元の学校へ行き、そのままだ鴨川長狭中学校で勉強した。三商へは高校から入学、1年1組の担任は小西先生のときに細田と一緒にだった。

3年でも1組、担任小西先生で細田と一緒にだった。

池本 覚（新佃島の酒屋）、中川和喜（新佃島）日本相互銀行一緒に就職した。坂井幸策（銀座西有楽町進学）洲崎の石川義昌（洲崎のポング）、などと仲が良かった。

細田とは卒業後、緑町にある本所支店に勤務していたころ、雨の日に偶然、両国駅でばったり会ったので、駅前にある屋台寿司屋の亀井寿司で寿司をつまみながら旧交を温めたことを覚えている。細田もはつきり覚えている。

中山峯男とは、一緒にスキーによく行った。銀行の同僚や、水谷照男の会社友達などと上野駅で待ち合わせ夜行列車でスキーに行った。

白井誠一は、印刷屋の跡取りで、頭もよく素早しい男だったが、酒に溺れ三十代でなくなり気のどくだった。倉橋秀吉、北川清、鈴木康男なども同じクラスだった。鈴木康男は保険会社の代理店をして



完

おり、千石二丁目に住んでいたが50代で亡くなった。昭和四十年代初め深川支店に勤務していたころ木場を廻っていた。川辺木材、古沢木材、一条権次郎商店などが担当だった。木場地区は東海銀行の地盤が強い地域だった。細田へは東海が強いので訪問しなかった。

富岡町の不動尊前に太陽銀行（旧名）として営業していた。後に日本相互銀行に社名を変更した。以前は中山峯男の家へよく行ったが、緑内障を患い眼も不自由になっている。その上に腰の手術をしてから歩行が不自由になりあまり外には出かけていない。

思い出の記

第19期 平井 直 ただし

二年の時 朝礼時の点呼の時、先生が直（ただし）と読めず「平井 直（ちよく）」と言ったため笑われたがそれ以来「ちよくさん」「ちよくさん」と呼ばれるようになってしまった。今でも直（ただし）と言う人は誰もいない。直（ちよく）さんと言われている。注、細田もこのことは初耳だ。

一年のとき横尾先生に教わった。ゴリラに似たご面相なので「ゴリさん」とあだ名をつけられていたが、家庭訪問の時間は必ず昼飯時を狙って訪問し、お昼ご飯を御馳走になっていた。子供心にも「ただ食いのゴリさん」として有名で、学校中に知れ渡っていた。

一年の担任は田部井先生だった。隣の席は築地包丁屋で小川三夫と仲が良くの築地の家にはよく行った。

二年の時も小川、丹治と一緒に。三年では別になったが、高一のときはまた一緒になった。

スポーツは野球、バスケットと何でもやったが特に得意なスポーツはなかった。大関守にも「平井は器用だ」と言われた。バレー部には、日本電気に入って活躍した小峯定男がいた。

北村は兄貴も三商卒で同業のメリヤス屋で付き合いがあった。妹も三商でタイプ部に居た。

丹治朝雄は竹内巳喜男の仲人をした。平井、小川、小西、勝亦、そばや志賀、竹内、丹治達と仲良く7人組のグループをつくり、卒業後すぐに箱根へ旅行した。田部井孝則会にも所属していた。

藤井孝保は孝則会に後から入ってきた。彼の家は布

箱根関所跡



団屋で押上の通りに店があった。後に親の店から独立し、北小金井の勅使川原（細田の義理の息子）と同じ町内でふとん屋の商いをしていた。細田は藤井とは思わぬところから縁を頂いている

平井は何が得意かと言えば、下手の横好きで「何でも来い」だった。

音楽部にはいり、楽器はなんでも手当たり次第に使って演奏したが上手ではなかった。

トランペットの上手な鈴木、トロンボーンの本松は墨田区に住んでいた。アルバイトで「ラテンクォーター」に出演するほどの腕前だった。深夜までのアルバイトのため本松はいつも顔色が悪く青い顔をし

ていた。小川、小西、勝亦の三人も音楽部だった。勝亦はテナーサクソ吹きだった。卒業後はサントリーに入社した。

立石には悪い奴が多かった福永、関根、向島から西川、月島の小野里は中学でやめた。西川は日本電建に入った。清田栄一教頭に入學させてもらったようなものだ。福井、松木とも同級だ。 完

三商思い出の記

第19期 細田安治

◇都立三商に入學

大東亜戦争の敗戦から半年余り、東京は焼け野が原が残っており荒れはてた風景であった。特に深川区（現江東区）焼け野が原に焼けただれた金庫や石造りの土蔵などがポツンと残っていた。世の中は闇屋が横行騒然としていた。集団強盗が近所に押し入ったなど様々な流言飛語が飛び交っていた。

街には米軍のジープが我が物顔で走り回りチョコレートやチューインガム欲しさに集まる子供達、ジープから排気ガスは、生のガソリンの匂いがして、これが不思議にと心地よく、ジープが走る去る後を追いかけたこともあった。

細田の家は製材工場の敷地内にあった。店は道路に面し裏手に家があった。製材機の音、振動で家が揺れるのは当たり前。特にザツク（縦に動く機械）が動いているときは地震のように揺れた。祖母はザツクが動かぬうちにご飯を食べてしまおう。と言われたことを覚えている。

◇商人になれ

昭和21年4月「お前は商人になれ」と父親の命令で都立三商を受験し入學した。



三商19期・散歩会 平成28年12月19日（月曜日）於 細田木材工業（株）見学

教科書はわら半紙にガリ版刷りだった。今にして思えば「ガリ版刷り教科書」は貴重なものだ、級友の方でお持ちの方はお申し出くださればと存じます。先生が油紙に鉄筆で書いた紙を、ガリ版で刷り、紐で結ぶ製本作業で手を真っ黒にしながら手伝った記憶がある。

教室のなかには教壇と黒板に、木製で机と椅子がくつついた二人用の勉強机があるだけだった。

◇パン券を不良に「カツアゲ」られた。

給食にパン券の時期があった。石川島の売店へ行けば「パン」とかえてくれる。昼時に南側対岸の石川島へは狭い「木の一本橋」がかかっている。歩行者、

自転車しか通れない。ここに橋をふさぐように「トウセンボー」している3人の不良に「お前パン券出せ」と言われた。向こうは3人しかも年上でとてもかなわない。悔しいがパン券を「カツアゲ」された。



浅草パブにて（その1）

◇教育が大事

親父の細田三郎は「俺は学問が嫌い」と四国高知の高知商業を中退し、途中いろいろあったが、姉の嫁入り先、兄の婿いり先の塩浜木工所で小僧から修行し、昭和6年に独立した。「俺は学問がない。学問がなければ」口癖のように言っていた。

「日本が戦争に負けた原因の一つに学問が劣っていた。これからの日本を背負って立つ子供は学問がなければ外国に勝てない」特に英語ができなければ、

外国と太刀打ちできない。学問のためにはできるだけの応援はする」として、三商へ薪の寄付、窓の板張り工事などで応援した。

◇19期ドキュメント

19期会は戦中戦後のドサクサを潜り抜けた「つわもの」ぞろいだ。米寿を過ぎててもなお、「かくしゃく」としている。これでは90歳はおろか100歳までもと意気軒昂である。

今回の思い出の記を書くにあたり19期会の発会についても諸説入り乱れている。田部井孝則先生とおっしゃる名物先生を囲む会として発足したが会の発起人から名つけ親に至るまで諸説入り乱れており19期会のならでは、面目躍如たるものがある。

◇田部井孝則会

「孝則会は俺がつくった」が小西照男、勝亦弘、丹治朝雄の3人もいる。小西照男は自称「俺が田部井と一番親しくしていた」当然「孝則会」は自分がつけた。と言う。勝亦弘は「孝則会」とつけたのは俺だ。と言う。ここで3人目の命名者丹治朝雄が現れた。3人は俺が俺と言っている。

名付け親は誰でもいい。ここでの3人でいいと思う。それだけ田部井先生は人気があったのではないか。

◇大関庵異聞―俺の席がない

細田安治は、木戸隆吉、川名省三などに誘われ平成23年（2011）に入会した。

今から10年前東日本大震災の年、大震災を受けたが当時はまだ最盛期、新入りの細田が恐る恐る空いている席に座っていると、「ここは俺の席だ」と言う。大関庵には細田の席がない、大関庵は自由席だが、それぞれ「俺が俺が」の連中ばかり、時間より早くいって座っていると、そこは「俺の席」といわれ隣に移ると、ほかの誰かがそこは「俺の席」と言われ、



浅草パブにて（その2）

座る席がない。新入りの悲しさ、自分の席がない始末だった。「席がなければ自分で席を作る」と、携帯用の椅子、それも高さが合わなければ下に見られる。高さのあうというよりも、大関庵の椅子より高い椅子を探して、大関庵に乗り込んだ。携帯用なので自由にテーブルを移動して、誰かれなく懇談できるよう工夫した。

こんなことを何回か繰り返しているうちに、大関店主が「細田、うちの店に来たのだからうちの椅子を使ってください」と言われたことがある。要は大関庵に座り切れないほど大勢の学友が集まり盛況であった。今でもこの椅子は記念にとつてある。

◇19期同期会

我々19期会のツワモノたちは卒業後、自営組、就職組、進学組とそれぞれがビジネス戦士として30年間は三商での教訓「日本の富を担うわれら」としての第一線で働き昭和30、40年代は高度成長時代であり寝る間を惜しんで働きに働いた。「日本の富を創り担いかつ築いてきた」なので、ツワモノたちが一堂に会する機会がなかった。私の知る限りの大規模な同期会の第一回は平成3年11月17日神田神保町の学生会館で盛大に挙行されたこと記憶している。今回の思い出の記を創るにあたり、木村滋男君から借りた写真によれば、なるほど第一回とされている。この記事を書きながら思い出したのは、「銀座の風月堂」で小規模同期会というか、有志の会に参加した記憶はあるが大規模なのは平成3年（1991年）と記憶していた。

ところが今回の思い出の記を書くにあたり、資料を調べていると三商同窓会報（昭和33年6月22日発行号）の紙面に「19期会発足す」の見出しにて、わが学友萩倉諫君の記事を発見した。ここに要旨を紹介し思い出の一助になれば幸いである。

◇19期会発足す

母校三商の創立30周年記念式典が盛大に行われた記憶冷めやらぬ4月13日、第一回同期会を開催、その名を「一九会」と命名とある。「いちきゅうかい」なのか「いっく」なのか、または変換違いなのかは不明だが興味深い表現ではないか。

山口ホールにて参加者120余名、清田栄一先生はじめ各組担当の先生、15名をお迎えし盛大に発足した。今村校長はご欠席されたが恩師を中心に懐旧談尽くることなく、また多少趣を変え会終了間際にダンスパーティーの切り替え、なごやかな雰囲気のうち半日を過ごしたのは初会ながら大成功と言えた。

三商へ入学した昭和21年春、終戦後第一回の入学生であり、戦災こそ免れたものの校舎は荒れ放題、また戦後の波乱激動に人は、己の信念を失い、人心地に落ち、唯、その日の「飢えをしのぐるにのみ」生きるを知らなかった時代において、我々もその例外でなかった。

細田注 その通りだ。弁当をなし学友が、昼休みに校庭の片隅に蹲っていたのを思い出す。

事ごとに恩師に反抗し、教室の計器を毀し、学業を放棄することに学園生活の快を味わったこれも時代の為せるところである。学制改革で我々の大部分は6年間三商に御厄介になった。戦火の跡が消え祖国が主権を取り戻して再び落ち着きを取り戻したころ、我々には卒業が待っていた。我々はこの時にあったって我々自らのものを探し求めた。そして我々は苦難の時代にあつて三商に育つたのを喜び合った知らざるを知らずと、先生も生徒も新しい時代の精神を求めて協力した。本会の席上、このことを、再認識できたのは何より嬉しいのである。

今日同期会を開いてみて、各人が立派に成人し、自己の持つキャラクターを遺憾なく発揮し、各方面で活躍している姿は誠に頼もしい限りである。既に妻子を得て独立自営に成功する者数知れず大学へ進学する者もすでに卒業して2年、各方面に次代の責任を負うて十分な活躍している。

今般催した同期会は、何分初回のこととて諸事万端勝手がわからず不行き届きの点多々あったことと思うが一九会の発足を契機として同期の一人多田宏君作詞の応援歌の一説、“正義に結ぶ和の心”を念頭に、今後同窓会の一環として同期三百余名の全員参加を目標に団結していかんとするものである。今後3年ごとに一九会は盛大に行われることになつ

た。ついては同期生各位のご協賛と母校の倍旧のご指導を賜りたくお願いいたす次第である。

30周年を契機に母校三商は、火中に死にてもまた生きるフェニックスのごとく、再び飛躍せんとしている。多くの同窓生諸兄の力強い和合とし、在校生諸君の努力の中で……。一九会は母校の斯くごとき発展を心から祝福せんとするものであり、今後の協力を挙げて誓うものである。萩倉 諫記

細田注 余計なことも書いたが、ほぼ原文通りです。在校中の萩倉諫君は哲学者のような風貌の持ち主だった。しかし風貌に似合わず、気さくな人柄で、だれとでも仲良くしてくれる懐の深い人物、と記憶している。

平成26年ティアアラ江東で開催した同期会の案内に返事が来ないため、森代表、正井幹事長ほかと勧誘にまわり、彼の家を訪問した。彼は体調不良で休んでいたが、是非出席をと勧誘すると、「ここまでこられては行かないわけには行かない」と冗談まじりに快諾、当日は元気に出席してくれたのを思い出す。あれから、しばらくしてか、亡くなられてしまった。「惜しい友を亡くした」思いである。

三商ドキュメント

◇昭和19年9月三商は造船工業と名称を変更させられた事実がある。都では一商と芝商以外は不要として必要なのは工業とばかり、造船工業と名称を変更させられた。このような事実を知るものは今となつては少ない。我々がいなくなればこのような不名誉な事実は忘れ去られることだろう。

◇戦後の混乱期GHQが教育に介入していた。都立の学校についてもナンバーズスクールは軍国主義的とばかり、第三商業の名称変更を迫ってきたが、今村直人校長が、断固反対して第三商業の名前を守った

のである。今村校長の勇氣ある決断により断固反対し三商の名前を守ったことを後世に伝えねばならない。

◇昭和39年在校生男女の比率逆転、男女比が47対53%、当時の大都市の比率は10%程度であった。現在在三商ホームページによれば男女比率は1対2.5とのことだ。ますます男子が少なくなる。

◇財団。尚7代校長正願地先生は三商財団所有地を東京都へ売却、財団の財政基盤を確立した。そのためにも三商異聞として書き残す。

◇記録

正井伸也が歩く会・大関庵での集い・同期会記念写真他資料をきちんと整理して保管していた。これだけでも一冊の本ができるほど立派なものだ。中野貞三も同様資料をきちんと保管している。今回「思い出の記」をまとめられたのは、両君のお陰様であり、几帳面さに敬服する。

◇川名省三が昭和62年(1987年)4月26日江東区会議員候補として出馬した。キャッチフレーズは「深川の川名」としてパンチパーマの怖い顔(失礼)だったが、約2800票を獲得初当選した。以来6期24年議員を勤め平成23年(2011年)に引退した。

完

写真 木村滋男・正井伸也より貴重な写真を提供してもらい本稿が出来上がった。持つべきものは友なりと感激した。三商思い出の記を書けば書くほど思ひだしてることが多い。あれこれと連鎖して思ひ出すものだ。書き出すときりがなくなるのでここで筆をおきます。

完

三 商 の 思 い 出

第19期 丸山清一

卒業以来の細田君から「何か書け」と連絡があり、卒業以来68年も経っているのに何を書けばよいのか迷っている。

私は、本当は商業学校が一番行きたくない学校だった。

工業学校を希望したが学校の担任教師から「お前の算数の点数では無理」と言われ仕方なく・・・

それと母方の従兄が10期の先輩（ピテカンと同期）で「校舎も焼けてない学校を」と強力な後押しがあり入学した。

校庭での入学式では講堂・雨天体操場に満杯の旋盤等の機械類を搬出中であつた。

しかし商業科の勉強はいやでいやで落第点を取らぬ程度の学習・・・

学年と級別は中一 二組、中二中三 五組、高一五組、高二 七組、高三 二組、担任は中一未至磨（ミシマ）↓八田、中二中三横尾、高一矢島、高二上原、高三八田の各先生方でした。

大嫌いな商業科の学課だが高2の時の級担任の上原先生から商業簿記がこんなに面白い学科だ！と目覚めさせられ、一方竹中先生（渾名はシユンペーター）からは商業経済の学問が素晴らしい、と教えられ過去四年間のブランクを一気に取り戻した感じだ。

その証拠に第一回全国商業高校簿記検定試験の二級と三級一発合格!! 面目を施した。

就職試験の時、会社側が簿記二級を珠算二級と勘違いした模様だった。本校からは三、四名の応募だった。



たが会場には三十名の名前が張り出されビックリ!! やるつきやない!!

何とか合格した。一商一名、三商一名、水戸商一名の計三名。水戸商のA君は町の教会で英語を習った。何故? シャベル為!! お後が宜しいようで・・・

◎通学時の思い出

中一の下校時茅場町へ着いた途端、電車の前と後ろの運転台上方から火を吹いた。車内騒然、運転手が大声で「ポール下げろ」と怒鳴り、全員青くなつて下車、幸い火災にはならなかった。原因はモーターの辺りでショートしたものと考えられる。

◎クラブ活動では

高2の時放送部ができた。実は高1の時、教頭の清田・生活指導の矢島両先生から放課後、科学部のメンバー四名が呼ばれ今後文部省から学校放送を行うから受信の準備をするよう指示された。その四名は松本善徳・鈴木稔（共に故人）・川村可和と私（共に健在）。

「商業学校だから機械や電気に弱いものばかりなのでお前達を中心になって協力して呉れ」

と頼まれた。（水を得た魚!）もちろん嫌いな事では無いので喜んで引き受けた。その後高2の時に立派な拡声装置（アンプと言う）が取り付けられたが各教室へのスピーカーの配線やハンダ付けは、我々四名が手伝った。アンプは淡路町在住の先輩・浦野無線社から納入された。海岸近くの塩風にも耐えるような丈夫なメッキを施された製品だった。先輩に感謝。



開く勝鬃橋 昭和のレガシー



佃の渡し

高三の二学期に就職試験があり、合格を担任の八田先生に報告し大変喜ばれ不動前の喫茶店でコーヒーを御馳走になった。嬉しかった。

その他中二の頃、「商船学校」の場所に居た進駐軍の戦車に校庭の舗装をメチャメチャにされ、八田先生が英語で強力な抗議でも校庭はそのままだった。中三の頃相生橋の下で舟で四ツ手網漁をしてゐるのを眺めたり、「佃の渡し」で明石町を通って帰ったり勝鬨橋が午後三時に開閉するのに当たったり（午後九時・正午と三回）徒歩連絡の勝鬨橋に九番・十一番の都電が通ったり、振り返ると色々な事があった。今ならとても無理無理、

若かった 若かった。

中一の時、誰と何用だったか忘れたが、洲崎の先

方面へ歩いた。彼の自宅方面だったと思うが都電の架線が地面スレスレまで垂下り車道は徒歩・自転車走行不可、空襲の熱で銅線が伸びたものだった。道路に網をかけたようだった。

◎人の行く裏に道有花の山

商業学校で本来の事を余りやらずに何とか過ごせたのもある意味時代が良かったのか な？

入学時五級、卒業時八級、約250名 ↓ 400名、それぞれの道を歩まれた事、

「全て善し！」と思います。以上

東京都立第三商業高等学校 入学当時の思い出

第19期 正井伸也



◎名門校と言われた所以
都立三商は大東亜戦争（第二次世界大戦）前までは、大学校と同等程度の学校である。との評価の高い学校であったと言われていた。

その証拠には、当時の小学校での成績が5番以上でなければ入学できないと言われていた。

小生が卒業した小学校は、当時、終戦直後であったため、疎開先の父親の実家である兵庫県明石郡神出村（現 兵庫県神戸市神出町）にある神出小学校である。小生が、中学校進学を機に東京に引き上げることとなった。当時の担任の教師に進校を問われ、都立第三商業学校と答えると、何も言わずに唯一言「お前には無理だ」と言われた。その時は、何とも思はなかったが、あとで考えると、あんなに東

京から遠く離れた兵庫県の山奥の小学校の先生が、知っている程の有名な学校であったのかと思った。しかし、親の方針で都立三商を受験したいと話し、先生も納得してくれたのか、成績内申書も可成り底上げをしてくれたものと思われる。

この年の受験生は、全員が入学を許可された。のちに聞いた話では、当時の今村校長先生の意向により、この時期（終戦の翌年）に希望してきた受験生を、大いに歓迎し全員入学させるよう指示したとの事。そのためか、小生も入学することが出来たと思われる。

◎立派な旧校舎

写真—1 立派な旧校舎



われわれが入学したのは昭和21年4月、旧制中学最後の生徒となった。



三商19期・散歩会 平成27年5月19日（火曜日）於 旧芝離宮恩賜庭園

当時の校舎は、大道路に面し屋上には大きな立派な時計台が聳え立っていた。その時計台に呼び出され、お叱りを受けていた生徒も何人かいた。校舎は、埋め立て地に建てられていたせい、目には見えなかったが正面に向かって左側が傾いていた。そのため、当時の校舎内の廊下は石畳であつたせいで、掃除当番の時は、廊下に水を流すと左の方に流れていった。また、大雨が降ると校庭の半面は水につかっていた。そんな時、当時学校に一艘のボートがあり、校長室に行き、当時の今村校長先生に許可を得てボートに乗って遊んだことを思い出す。そんな反面、悲しい出来事も起きた。当時、校舎の地下

室にボイラー室があつた。そこも当時のことながら大雨が降ると水で埋まってしまう。そんなある日、近所の小さな可愛い女の子がそこに落ちて命を落とした悲しい出来事もあつた。

当時、校舎の中の小部屋には何人かの先生方が生活をしていった。その中の一人で、我々の先輩でもある歴史と剣道担当の古暮先生がいた。小生は、この古暮先生に可愛がられ、何度も泊めてもらったことがある。そんな翌日には、必ず小生には剣道具を身につけさせ、自分もなにも身に着けず屋上に連れていかれ、果し合いをさせられたことを覚えている。

我々が入学した当時は、屋上に上がると勝鬃橋の開門（毎日9時・12時・15時）を眺めることができた。今は、高層ビルが乱立して見る事が出来なくなつた。

◎ 近くに進駐軍兵舎

当時、学校の並びには元商船大学校・水産講習所の建物があり、いずれも米国の進駐軍の兵舎とされていた。そのために、学校の講堂や雨天体操場は進駐軍兵士の遊び場として利用されていた。そして、授業中には教室に入ってきて、授業を眺めていた時もあった。運動場には毎日戦車やジープが入ってきて、アスファルトをはがしてしまい、砂利だらけの運動場と化してしまつた。

◎ 川岸運動場での出来事

学校の裏側には川があり、校舎が囲む運動場の川側には川岸運動場と呼ばれていた運動場があつた。今は、新しい校舎が建てられている。その傍に架けられている「豊洲橋」は、現在は、自動車も渡れるような立派な橋に架け替えられているが、われわれが入学した当時は、木で作られた、人もやとすれ違えるほどの細い小さな橋であつた。

われわれが入学してから何年かのち、その橋のたもとで悲しい出来事が起きた。

或る日の朝、橋のたもとに和服姿の一人の女性がたたずんでいるのが見えた。授業が始まり、一時間目、二時間目が過ぎたときまでは、その姿は確認できた。しかし、三時間目が終わったとき、その姿は見えなかった。

その何時間後に、その姿が川面に浮いていたのを確認されたとの事。

以上思い浮かんだ事を書き綴った。

完

三商の思い出

第19期

宮下 孟本 おさもと

東京は隅田の生まれ、戦時中は（河口湖S15年・16年）縁故へ疎開し、戦後は数年間日本橋に居住し、以後昭和24年より現住所に共住する一老人です。

終戦の翌年4月三商に憧れ入学をした次第ですが先ず驚きは

① 都電で僅か20分足らずの通学であつたが、朝のラッシュの凄い混雑にて電車に乗る事が出来ず車外カバーの上に足を乗せ、電車の窓際にあつた手摺に掴まり、身体を外側にして通学した数多く体験したが、生きた心地が無くなる位の怖さがあつた事が想い出されます。

② 次に本校の敷地の中に入つての印象として校舎はやや地盤沈下しており、雨の日には水溜まりが出来る状態になりましたね。

憧れの入校した学校がこれでは先が思いやられる。の印象が当時常に強かつたが、中学生として努力して頑張つて行うのみであつた。

入学して数十日経過した或る日、特別授業として明

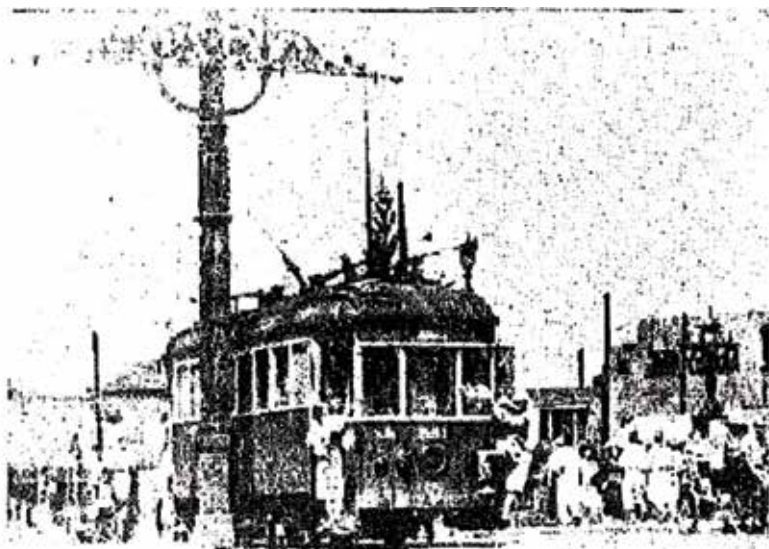


図 1 都電に命がけでぶら下がり三商へ通学

日、三商江戸川農場へ直行の指示を受け愕然としたが、これも中学生の体験と受けとめ、約2年間位、2か月一度位通ったと思います。

春に植えたさつまの苗（さつまいも）早秋に実り皆分け合いの焼き芋の楽しみもありましたね。

話は変わりますが、本題の珠算の話になります。

小生小学2年生より親の勧めもあり 将来の為に珠算塾に通い序々に上達して来ましたが、戦争の為にお袋の郷里に縁故疎開し2年ブランクがありました。が、三商に入り勿論珠算部へ入部し日々研鑽し併せて本校教諭が開塾の珠算塾に通い、日夜に亘り珠算に明け暮れる日々が続き身体具合も悪くなり大変な苦勞の結果、確か昭和23年度の都立商業高校の珠算大会に於いて同期（19期のメンバー）5名1チーム

△見事宿敵の芝商業を打ち破り優勝した時には大きな喜びを勝ち取る事が出来ましたが本当に嬉しい事でした。
この様に19期の我々の幼少期は大変な変動の時代でもあったと言えと思っています

思 い 出

第19期代表 森 莞

中学入学当初は千葉県松戸市から通学していました。当時のラッシュは今は格段の差があり電車の座席に立って網棚に横になり電車の屋根、連結器の上に乗っている状態でした。学校の隣の商船学校に



傘寿の会スナップ



第101回 三商十九期・懇親会 平成23年5月19日（木曜日）於 大開庵

アメリカ軍が進駐していて、その兵隊が女性と学校の体育館に来ていた痕跡が残っていました。授業中に進駐軍の兵隊が教室に入ってきて来て、丁度英語の授業中で先生がどう対応するか見ていたら、そこそと出て行ってしまい、日本の英語教育の摸索をしてみ感じました。

当時GHQから中止されていた柔剣道を古暮先生から誘われ深川平野警察署でやりました。

古暮先生は剣道で日本一になった経歴の持主ですから、やめられなかったのでしょう。

修学旅行は奈良京都地方で朝の集合時間に遅れて来たのが何人かいました。原因は七条新地に泊った



三商19期・散歩会 平成26年5月19日(月曜日)於 有栖川公園 (有栖川熾仁親王の銅像)

連中で(自分も含む)した。

授業に音楽がありました。女性の先生で騒いで授業をボイコットしたことでその後音楽の授業が無くなりました。

学校の場所が埋立地のため雨が降ると校庭が水浸しとなり、朝礼も出来なくなり地下も水浸しの状況でひどいものでした。

高校の後半はアルバイト先の人妻に恋をして勉強がおろそかになり、三月に卒業できず補修を受け三か月後に卒業することが出来たの思い出です。女は怖い。

三 商 の 思 い 出

第19期 森田兆蔵



思えば昭和21年3月満足な卒業式してもらえず、三商に入学したわけで、なぜ三商を選んだかと申しますと、当時ナンバースクールの学校に入学したいと思い、たまたまわたくしの家が八百屋をしておりまして、たまたまわたくしの三商を選んだわけで、内申書と願書を、私と母と一緒に越中島の三商に持参したわけで、帰りに三商の門に向かって入学できますようお願いしたのを、覚えております。

19期現役で活躍中の二人の猛者

森田兆蔵は朝3時に平和島のヤッチャバでセリに立ち会う。八百民の店前で奥さんとツーショット



三 商 の 思 い 出

第19期 渡部泰博

20年3月平久小学校の集団疎開で新潟県の弥彦に

いたが三商へ入学を希望していた。

三商に入るために勉強道具や荷物を送ったが3月10日の東京大空襲で家ごと全焼した。

3月15日三商へ入学手続きに行った。この時平久小学校が焼けたと言えに入れたが、卒業見込みの3月1日に新潟にいる小学校の教頭が卒業を証明してくれた。3月27日に証明書が届いた。三商へ入学の手続きに行ったら、清田教頭から3月25日で締め切ったので残念だが来年にしてくれと言われた。この時、吉田と言う先輩に、4月11日屋上へ引っ張られて、お前はどうぞせ来年入るから「校歌でも覚えておけ」と言われた

やむを得ず1年浪人した。同じ年の佐藤造船の佐藤正雄や岩室英雄君など小学校同学年生で三商へ入学した。残念だが、先を越されてしまった。弟の茂雄とは1年遅れて同期となり共に学び中学卒業は19期と一緒に卒業した。

新制中学を卒業してから昼間働いて夜学ぶ三商の4年制の夜間部に入学した。

夜の二年生の時、柳沼先生は、奥さんをお産後亡くなったことを悲しみ、朝鮮部落の濁り酒を呷り気の毒にアル中になったしまった。

相談事を夜の責任者の二階堂先生に相談しないで直接清田先生に相談したので二階堂先生に睨まれた。高三の時四年生が生徒会長で自分は三年の時生徒会の庶務させられた。学芸委員や集会部長を勤めた。中学三年の時越ヶ谷から地主の倅の中村がお弁当としておにぎりを三個持ってきた当時としては大変な贅沢だ。京成立石から来ていた悪い関根が、「おにぎり三個も弁当にするぐらいだ。米が一杯あるだろう。お前米を持ってこい」と毎日米を三合づつもってこさせた。

先生たち古暮と田部井と志鎌も加わって、毎朝、階段教室で塵取りを使い、お米を五勺づつ分けた。余った時はお粥にした。

これとは別にヤミ米を横流し、食管法違反で朝倉と中村が深川警察に捕まった。この二人を貰い下げに行った。深川警察署の署長が渡部康弘の親父といっと同士、事情を話し許してもらった。

高一の時4月20日に面代先生が夜の方へ回されてきた。

◇働きながら学ぶ

勤め先を紹介は殆どが清田先生に直接頼んだ。このことが夜間部の責任者で副校長の二階堂先生に睨まれた原因と思う

① 末広町の東京自転車(株)個人会社に勤めた。末広町の都電の停留所で木村滋男とよく行き会った。主に蒲田まで自転車のペダルを100個配達が仕事。重い荷物なので往復3時間位かかった。とても続かずと3ヶ月でやめた。

② それから先輩の日本農業協会へ紹介されて行った。電話番号をした。洋服屋の工場6〜8畳の場所です事務所と同居していた。

自宅の深川塩崎町から木場まで歩き電車で通った。ここは楽だったが、なれると残業しろと言われる。学校へ通えなくなるので残業はできないと事務所を辞めた。

③ 古石場森製作所、本田技研の原付バイクのネジを作っている会社に入った。製品は油で洗う作業なので、手がドロドロになって一年で辞めた。

④ 高寺龍太郎商店(おもちゃや)

北海道、仙台、青森、城崎などのデパートへ発送の箱入れ荷造り作業だった。仕事はきれいだったが、ここでも、慣れたら「残業してくれ」「残業はだめだ」

と言って辞めた。

⑤ 昭和28年2月1日に会計事務所に入った。坂入という知人が勤めていたが「俺は勤まらないからお前行け」と紹介され入所した。これが渡部と会計事務所の縁だ。入所後5年で公認会計士の資格を取った。事務所は神田神保町停留所前30年間会計事務所に勤めた。

⑥ 顧問先は洲崎の遊廊にある質屋の森川は三商の先輩で卒業後私が帳面を見た。銘木屋の山清銘木店の中野支店、立川支店などの帳面は自分が見た。

完



三商十九期・旅行有志の会 平成26年9月30日(火曜日) 於 リゾーピア熱海

あ と が き

第19期 細田安治

敬称略

◇貴重な経験を後世に

卒業以来半世紀を越え19期卒生残り約100人。私たちは、まだまだ頑張っています。毎月19日の散歩会と大関庵に集まって氣勢を上げている。話題は三商時代の思い出話に花が咲き、話せば話すほど昨日のように思い出が蘇ってくる。19期生の4年間は万々下級生で上級生にしごかれる毎日、チンチン電車にぶら下がり、いつ振り落とされるか、ビクビクしながら必死の思いで越中島の三商迄通った。このような二度と経験できない貴重な話ばかりである。こんな雰囲気の中で、誰言うとなく持ち上がったのは、「二度とない貴重な思い出を書き残そうではないか。戦中戦後の混乱期の思い出を文字に残し、後進に伝え、すこしでも貴重な体験が、世の中のためになれば幸いだ。もっと言えば「伝えることが我々世代の使命ともいえる。兎に角みんなで原稿書いて同窓会報に出そう」ということになった。

このような経緯で「思い出の記」は19期会つわもの30名の熱意と総意で出来上がった。

◇大関庵集會始まりのいきさつ

都立ナンバースクールが、年一回「東京校歌祭」を行っている。都立三商も毎年参加している。平成14年(2002)12月校歌祭終了後、参加メンバーが、「呑み足りない」「話足りない」で誰言うとなく20人ほどが、両国橋を渡って学友大関守の店、両国の蕎麦屋大関庵まで「二次会を」と足を延ばしたことがきっかけで始まった。この日から足かけ20年続い

ている19期会の始まりである。この日を第一回とすればそうなる。藤井康三郎、中野貞三、木戸隆吉、藤井孝保などが発起人と言え言える。

その後学友たちに呼びかけ人数も増え最盛期には30人を越えた時期もあった。

◇散歩会の始まり

平成15年5月藤井康三郎の「健康のために歩こうよ」の呼びかけで始まった。

実行は中野貞三が中心になり月1回19日に実行した。平成25年9月19日第85回散歩会目黒天空園にて本年12月をもって世話人辞退するとの申し出あり、後任の世話人を当初正井伸也にと依頼するも「任にあらず辞退」と固辞、それではと森莞が19期の代表世話人兼務として引き継ぎ現在に至っている。尚正井伸也は増淵義昌に誘われ初参加したのは平成16年2月19日に大関庵に参加した。散歩会には、第九回の岩崎邸ほかから参加している。

細田安治は、木戸隆吉、川名省三等に誘われ第100回の平成23年4月19日ソニー博物館見学会の時に入会した。この時の写真は残念ながら見当たらない。写真があるのは第101回綾瀬菖蒲園ほかを歩いた雨の日だった。はつきり覚えている。荒川区の記念館には、往時の名物お化け煙突の写真が残っており往時をしのんだこともはつきり覚えている。パンフレットを見ていたら正井伸也に「お前はなんでも興味があるな」と言われたが正井のほうが資料の整理に長じている。

完



寄稿文・エッセイ 徒然に...

「本物の八百屋」野本要二さんが勲章をゲット!!

第26期 古田勝一

「生涯青春であり続けたい」との願いから毎年開催して参りました26期同期会も「令和元年」の一昨年は通算30回を数え、卒業60周年も重なり、上野の「東天紅」で催すことが出来ました。当日は全商理事長でも居られる母校三商の中山博之校長先生の御臨席を賜り、又、金原亭馬生師匠にも華を添えていただき、記念すべき同期会となりました。

今年も31回目の同期会を六月に開催すべく、当番幹事の二組が中心となり進めて参りましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止せざるを得ませんでした。

た。その後の同期への連絡は早く、政府が緊急事態宣言を発令する一ヶ月前には、岩瀬和子・前同窓会長、杉本光男・事務局長の御尽力で「中止のお知らせ」を発送完了することが出来ました。

オット!! 話がアト・サキになりゴメンナサイ：本題に入らせていただきます。

私共26期の野本要二さん（東京都青果物商業協同組合・前理事長／全国青果物商業協同組合連合会・直前会長）が令和元年・秋の叙勲に於いて「勲四等旭日小綬章」なる大変位の高い勲章を受章されました。（勲章の種類：「菊花章」「桐花章」「旭日章」「瑞宝章」「文化勲章」「宝冠章」）

三商は全国的に簿記・珠算の名門校でしたので、「そろばん」の腕に覚えがある人は沢山おります。又「そろばん日本一!!」も何人が輩出しております。

野本さんは日本商工会議所の珠算検定・一級を小学生で既に取得しており、そろばんの得意な少年でした。この暗算力の特技は後に八百屋になってから大変役立ったと聞いています。

三商時代は野球部（ポジション：サード）で青春を謳歌し、1959年卒業と同時に「八百周」に就職。

この「八百周」は数店舗経営する家業の八百屋さんです。スタートは江東区東陽三丁目。人通りの多い交差点に面したお店で、その傍ら月に数回、車で東雲団地へ向かい出張販売もこなすと云うものでした。

まず野本さんは、街の八百屋の利点を生かし繁盛店になるには：と熟慮分析し、次の三つの基本コンセプトで行くと戦略を詰めました。

一、他店との差別化を図る上からも、店頭に「青果物よろず相談所」を開設

一、八百屋の力量は仕入れる野菜の目利きに掛かっている

一、対面販売では明るい笑顔と楽しい会話で

コミュニケーションを図る

スーパーマーケットは（ヒト・モノ・カネの）経営資源は大きいかも知れないが、同じ品質のものを大量に仕入れる必要性が有る。八百屋は小回りが利くので大量に仕入れる必要が無い。その分、より品揃えも魅力的な根付き野菜等も扱うことが出来る：店頭や出張販売を重ねて行く中で、

・野菜の良し悪しの見分け方

・いろいろな夏野菜の旬をタイムリーに伝える

・多種多様な野菜をおいしく食べるコツをアドバイス：等、

消費者と交わしたふれあいややりとり、相談内容のアレコレの集大成として、1995年には『野菜相談うけたまわります』との本を出版。

（東京都青果物商業協同組合の）理事長に就任してからは、後継者育成の面から『八百屋塾』に力を注ぎました。

八百屋が扱う青果物は人間の体に入って命を作るもの。健康維持増進にいかんにか大切かを普及するには、八百屋自身ももっともって青果物について詳しく勉強をし、野菜のプロになって欲しいとの願いから『八百屋塾』の研修会に力点を置いたのです。

ジャガイモを例にとると：北海道より生産者を講師に招く↓ジャガイモのおいしい見分け方や生産者の想い等を学ぶ↓実際に各品種の食べくらべをする。

（全国青果物商業協同組合連合会に於けるある会で）会長挨拶、一部抜粋：

【少子高齢化の進展で、消費者の購買行動が変化し、ネットスーパーや電子商取引なども浸透しています。

会員は、消費者の購買行動の変化やeコマースの進展など青果小売業を取り巻く環境の変化を充分に踏まえて、マーケットイン志向による消費者視点で青果小売の専門性を発揮することが極めて肝要と考えています。

八百屋は魅力あるおいしいものを届ける『食べ物屋』で有りたいと思うのです。

例えば「イチゴ」なら、どのイチゴが自分に合うのか。又、このイチゴは色が薄いけれど、一日置いてみたらいい色・いい味になるとか。そう云ったことをいろいろと研究しながら（中略）実際に自分で食べてみて、おいしさを知るべきだ、と思います。】種をまいて肥料をやり、水をまき、芽が出てくるのを待とう：芽が出る前に焦ってほじくったら実りにはつながらない。

商売は「アキナイ」とも云います。店の売り上げが少しぐらい上下しても、飽きないで勉強をし仕事を果たすと云う揺るぎない誠実な行動力が有れば、必ず儲けは後から付いて来ます。

「正しい種まきをしていれば必ず成果（青果？）が出る」

野本会長は生鮮食料品の流通・市場の活性化・販売戦略の推進に尽力されました。

野菜に惚れた！！野菜大好き人間！！

叩き上げの本物の八百屋さんが受章されたことを26期の仲間としても誇りに思います。野本要三さん、

本当にオメデトウ：そして有難うと感謝の気持ちで一杯です。

■黄泉に旅立った故細田武君（二十一期）を偲ぶ■

第21期 高野 昇



細田君との最後の花見
（新宿面影橋）



▼令和二年八月二十四日彼は永眠されました。「三商同窓会誌」や「同窓会ホームページ」に毎月小生共々寄稿していた盟友であり六十八年に亘る長い付き合いでした。二〇二〇年一月の同窓会ホームページに「骨髄性異形性症候群」であることを書き、翌

月の同ホームページで「血液癌」であることを自ら寄稿していました。以前から肺のCOPDの治療も受けていましたが、結果は、ご遺族はもとより私にとっても悲しい別れとなりました。

▼彼とは二年生（昭和二十七年）の時、同クラスとなり三年生の時も一緒に、彼は陸上部で活躍、以来の長い付き合いでした。彼は入谷の酒屋の長男、小生は亀戸の食料品店の倅、三年時のクラスは進学組、就職組、自営組の混合クラスでいろいろな個性溢れるクラスメイトが居り、銀行員、建設会社、石油系などに就職、公認会計士、学士院会員の野中君（一年生の時同クラス）とか、三年時の同クラスには上場一部企業に自ら立ち上げたユニデンの創設者藤本君などの同輩もいて、多才な人材の卵が多数おりました。小生は銀行（日本長期信用銀行）に内定していたのをなぜか今村校長、清田教頭から急遽指示され江商（現・兼松）と言う総合商社社を受ける様に言われ、江商は三商生と一商の生徒しか採用しないとの事で『がんばってこい』と私が指名され同窓（他クラス）と二人が改めて受験、私のみ内定の通知を受け、多分珠算検定一級に合格していたのが功を奏したものだと思っていました。日本長期信用銀行には丁寧にキャンセルさせてもらったと、清田教頭がわざわざ我が家を訪れ両親の了解を得ていました。

▼それより以前の昭和二十六年、私が三商に入学した四月に上の兄（十六期生）が大学に入り司法試験に挑戦するために旧制中学五年（府立三商）で卒業、三菱レイヨンに勤務していたのを退職し一年間の浪人資金、入学後の学費などを稼ぐため実家の裏手で珠算塾をはじめ、三商に通学しながら兄の整を手伝っており、したがって部活も出来ず「帰宅部」で

した。塾の生徒が増え兄一人では捌ききれず、そんな中、杉原勇太郎先生が亀戸の我が家をわざわざ訪れ「三年生の就職組の中でどうしても珠算三級を獲らせねばならず、総武線沿線で通学している生徒を五人ほど高野兄弟で指導、練習させ合格できるように指導して欲しい」と懇願され兄は快諾、私は学校での上級生を言われるままに指導補助に勤め、結果は全員見事三級合格、その中の一人は大手ゼネコンに入り定年まで勤務先の重責を担う部長を務めあげていました。兄はその数年後、司法試験と公認会計士に合格し、その時の清田先生と勇ちゃん先生の嬉しそうな顔、あの時の様子は兄との語り草となりました。

▼自分の事はさておき、細田君とはなぜか気が合い、話をしているうちに勉強？以外で好みや趣味が合い最初に彼と学校帰りに行ったのが人形町の寄席「末廣亭」で金馬の落語「居酒屋」三亀松や都やかつゑの「都々逸漫談」「千太・万吉」の漫才などラジオ以外ではじめて芸人の姿を生で見ました。寄席の屋席に詰襟を着て入場していたのは二人だけ。この寄席で二人共古今亭志ん生や桂文楽などの顔と芸を知りその後何度となく人形町通いを二人でしていました。二学期は就職試験や面接が多く授業もあまり進捗せず自習が多くなっていました。

▼わざわざ無料の佃の渡しで隅田川を渡り築地を歩き歌舞伎座にもよく行きました。彼の父の影響か歌舞伎にはかなり詳しく知識と蘊蓄を語り、梨園の系図など抜群の記憶で、その歌舞伎座で三商同期の通称「仙ちゃん」と会いこの仙ちゃん、大向こうから役者が見栄を切る場面で「成駒や・・・」とか「成田やア」とかの声掛けの真似事などして細田君はこの立見席（一幕見）の常連だったのをその時知

りました。オマケに歌舞伎座のもぎり（入場券をチェックし半分に切り取る仕事）のお嬢さんと顔見知りとなり「三商の歌舞伎研究会です」などといった加減な事を言うといつも顔パスで「一幕見」ができました。新橋演舞場でもこの手で出入りし「世話物」の名台詞をしつかりと憶えました。

▼日本橋の東京ガスの裏手にあったカウンターだけのコーヒー店「ナナ」にも仲間4、5人で出入りし、この時憶えたコーヒーの優雅な香りは嗜好として今も続いています。白木屋の屋上で時間潰しのアブラを売り、細田君が屋上のペット売り場のオウムに「買いい物は高島屋」と吹聴し憶えさせようとして、店員ににらまれました。当時のデパートの屋上はどこの店舗も小鳥などのペット売り場でした。その後しばらく白木屋には行かず。仲間の誰かが白木屋前にいた靴磨きの小父さんに「いまお金これしかないんで片方だけみがいてくれる？」と言い「片足だけ磨く人は居ねえよ」と鋭い眼光で言われ後で仲間で大笑いとなりました。八重洲口近くの甘味処の「なかばし」で汁粉や磯部巻き食べ、今の高校生のような私服もなく、何処へ行くにも制服の背広が詰襟である三商帽を堂々と被り、それがあたり前のことでした。ジャズ喫茶の「銀座テネシー」にもこの格好で行きました。

▼そうそう、この「テネシー」で簿記の八田先生とばったり会い、私達はビックリ、きつと明日は校長室に呼び出されると細田君と覚悟をきめていました。次の日の「簿記」の時間に八田先生がいきなり「昨日は十二期の海老原啓一郎（テナーサクス奏者、ジャズ界では知られていました）がいつ出演するかを聞きにいったついでに入ったら君達と会った」といいました。すかさず細田君が「先生も、

ジャズ好きなんですか」と問い先生は「君達よりは詳しいよ」と微笑みながら即答、すぐに工業簿記の授業が始まり、それだけでした。

その後八田先生の「簿記」の授業に何故か親しみが沸き『簿記検定』の二級に合格、細田君も一緒にパスしたはず、ジャズと簿記、趣味と勉学の変な因果に卒業後も二人の酒の肴として笑い話になっていました。私がふらふらと仲間と出掛けるのは塾の休みの日、木曜日だけでした。細田君は自営グループ、私も就職先が決まり勉強以外にこんな楽しいバカな事をやっていた三商在校時代、六十数年前の事でしたが断片的な思い出と言え夫々にいつも細田君が一緒だったことを鮮明に思い出します。

▼細田君は下谷の生まれてもあり小学生のころすぐ近所にあの「江利チエミ」の家族が住んでおり2歳年下のチエミさんから「タケちゃん、タケちゃん」と慕われ、その後の彼女の活躍はご存知のごとし。在学3年生の十二月浅草国際劇場（現浅草ビューホテル）に当時絶大の人気を誇った「ジョージ川口 & ビッグフォア」と共演し、これをあの頃は「実演」と言い封切り映画と併せての公演でした。幼馴染の縁で彼と二人で楽屋訪問、映画上映中の休憩時間をチエミさんとビッグフォアの4人も加わり楽しくしゃべりまくりました。ジョージ川口さんがアイスクリームを出前でとってくれ、ジョージ川口さんが「アイスクリームの出前は冬に限るよ、夏は配達中に溶けちゃうからね」と言い大きな声でチエミさんと笑っていました。アイスクリームを出前で食べたのは、後にも先にもこれがはじめてで、おまけに真冬の十二月、ステンレスの器に独特のスプーンとウエハス、翌日クラスメイトに自慢してしまいました。細田君と二人、あの頃はアイスクラン

デーしか食した事の無かった懐かしい思い出です。「君達、学校はどこなの？」と中村八大さんに聞かれ細田君が「三商です」と言い小生が「アルトサックスの海老原啓一郎さんは先輩です」と言うと「先月、エビちゃんとステージ一緒だったよ」といっていました。帰りの都電の中で「小野満つて、スゲーいい男だな」とか「中村八大つて、歯並びが悪いなア」と言い合いながら「ジョージ川口さんが沖繩での米軍慰問の演奏の時、エージェントをした将校から中古の戦闘機を一機貰ったけと置く場所が無いので断った」って話は本当ですかと聞いてみたかったがオオボラ吹き、話のスケールのでかさのジョージさんを知っていたので細田と顔を見合わせてやめた、この話は後年も細田君と会う度に笑い話となっていました。

▼細田君はなんせ趣味の幅が広く晩年は彫像師運慶、絵師の葛飾北斎、伊藤若冲等昭和の川瀬巴水などに多大な興味を持ち、住まいが上野公園に近いのもあり、最近まで電チャリでチョコチョコと博物館に通っていたようです。卒業後池之端にある「横山大観記念館」へ二人で行った時、大観は富士山の絵画が得意で有名でしたが「松竹映画のタイトルの方がいいね」など二人で戯言を言い、今思えば日本画の超大家「横山大観」に失礼な事を言ったと反省。松竹映画のタイトルの富士の写真は岡田向陽と言う人の作品だったと思います。

▼地元「入谷の朝顔市」の開催時には毎年豪華な「アサガオ鉢」が宅急便で送られてきました。品種の最高峰は「團十郎」と言う浅茶色の朝顔で、値段も高価で、市ではあまり目にできませんが細田君は市の開催前に栽培農家に足を運び手にしていたとか。江戸末期に市川團十郎の江戸歌舞伎の代表作「暫」で

着た衣裳の色が評判となり、その色が浅茶色で、その色を模して当時の朝顔職人が作り上げ、いまでも伝統的な朝顔として受け継がれていると教えられ私の朝顔に対する見聞を広めてくれました。地元氏神の本祭礼には神輿の先達を務め、羽織袴姿で入谷町内を練り歩き、その羽織袴姿の出立はタツパのいい細田君にピッタリ。今も印象に残っています。

▼近在の学校で学童疎開の苦労話や昔の子供の遊び、PTAの会長、町内会の会長はもとより纏めや世話役、最近では高齢者を中心としたコミュニティグループをつくり下町の旧所名跡を訪ね歩く集まりの陣頭に立ち、昨春神田川の面影橋から椿山荘付近まで花見見物、小生も参加しました。彼のご長男がいつも父親に協力していたのが印象に残りました。思えば彼と街中を歩いた最後の花見でした。その少し前、自らの体調と相談しつつスーパの進出、安売り店の出店拡大などで小売商いの衰退もあり店舗を閉め、体調回復に幾たびか入院を重ね、COPDの既往症はもっていたものの「血液癌」については「寛解」の御墨付けを受け「オレもまだ頑張るぜ」といっていた矢先のこの度の訃報でした。週に一度は互いにメールのやりとりをパソコンでしており、訃報を聞いたその日には送信するメールを午前中に送るつもりで下書きができあがっていました。数少ない大切な「メル友」が一人居なくなりました。▼コロナ禍の中、葬儀斎場の記帳台の机にあの卒業式の日川岸の東雲橋の上に立つ彼の写真が飾ってありました。私が持って行ったカメラで私が写したもので、後方にはあの時計台が写っています。ご長男に「この写真、親爺が凄く気に入っていたんです」と言われ胸に迫り涙が溢れました。思えば在学高校生でありながら寄席、歌舞伎、ジャ

ズ喫茶、コーヒーショップ、八重洲にあった甘味処の「なかばし」、神田三省堂での立ち読み、彼との数々のあの時の行動が昨日の様に蘇ってきます。

七十年に及ぶ友好に心から感謝を込めて手を合わせご冥福を祈り、残されたご遺族とも今後もお付き合いさせていただきます。

さよなら・・・さよならタケちゃん・合掌

■追伸■

細田君は、パソコンの同窓会HPや年一度の「同窓会報」に寄稿していました。寄稿することが闘病中の彼にとつても楽しみ、憩いのひと時であり「寄稿することが闘病の励みになる」といつも私に語り、寄稿文の中でも書いていました。彼の逝去後、同期・同輩の黒子晃君とのメールでの話し合いで細田君の意思を思い、機会あるごとに会報に寄稿する事を約束しました。すでに昨十月から黒子君が寄稿しており、彼の豊富な海外旅行体験や多趣味な被ゆえに、広い範囲の寄稿など書いてくれる筈。

細田君の強い意志の「読んでもらう、内容がユニークな会報、マンネリ化にしない、PCで送信されてくるのが楽しみな会報・・・」など少しでも細田君の思いを引き継いでゆこうと黒子君と誓い約束しました。

令和二年十月記



心友と3人で屋上に
細田・小生・黒子
(昭和28年秋)

思ふは居場所のひとつ秋深く

旅の徒然・閑話休題

第21期 黒子 晃



同窓会ホームページで投稿文より
(題字・写真も同じく)

トルコで

イスタンブールでオトウサン(otosan)とか、カアサン(carsan)とかいうエンブレムがフェンダーや後部についている車が走り回っています。私の他には誰も気が付いていません。

otoは英語のautoでcarは英語と同じと見当がつきますがsanはサテ?

現地のトルコ人ガイドのお姉さんにsanとは何かと聞きました。

「ああそれ、さんぎょうのサンです」と。まさかア・・・トルコ語のサンが日本語の「産業のサン」であろう筈がないじゃありませんか!

このガイド「アイシヤさん」は日本へ行ったことは

ないと言いながら、日本語はペラペラ。休憩時間に日本語で世間話ができる程。彼女は申し訳ないが(もちろん直接口に出すこともできないが)いわゆる「花王石鹸」顔なのです。「妹は私のことを『魔法使いのお婆さん』とからかいます」と自ら言っていました。



その彼女の言ではありますが、トルコ語のsanが「産業のサン」であるということはあり得ない。話がややこしく

なるのを避けて、その場はそのままにして、帰国後調べてみました。

その結果トルコ語のSanaiが産業であり、sanはその短縮形であることが判明し、ひとりで大笑いしてしまいました。

パリで

車と言えば、パリの街角で駐車している車に「MEGANE」を見つけました。

まさか「眼鏡」ではあるまいとは思いましたが・・・帰国後日本でも結構走っているのがわかりました。ルノーの「メガヌ」という車種だったのでした。これも一人で笑っちゃいました。

リトアニアで

バルト3国のリトアニアの名産品に琥珀があります。

琥珀の博物館で「GINTARO」という表示をあちこちで見かけました。

「銀太郎」かア・・・。と何とも不思議な感覚を覚えました。

Gintaroとはリトアニア語で琥珀のことだと帰国後調べがきました。

こちらでも一人で笑っちゃった口の一つです。

それにしてもこんなことがいとも簡単に調べられる Wikipedia には脱帽！

その昔、高嶺の花・垂涎の的だった Encyclopedia Britannica を絶版に追い込み、オークションでも数千円にしか値が付かなくなるご時世。

IT, ICT, IOT 万歳！

続きは

<http://clocko.web.fc2.com/>

でご笑覧下さい。

フィレンツェで

同行のO氏と3人でレストランに入り夕食前に軽く一杯やろうということになり、テラス席に陣取りました。ウェイターが注文を取りに来たので、鳥賊の炒め物が旨そうだねと覚えてたのイタリア語でカラマロ・カラマリーと連発しましたが、ウェイターは首をかしげて「そんなの無いよ」と言っているようです。しばらく押し問答をした挙句、ちょうど別のテーブルに鳥賊の料理が運ばれるのを見て「アレだ！あれだよ」とやりましたら、こちらのウェイターが我々に尋ねていたのは料理ではなく、飲み物を何にするかを聞いていたので「鳥賊」印のワインなんか聞いたことがないよといったのでした。それが分かって皆で大笑いとなりました。

ポルトガルの漁村で

ポルトガルの鄙びた漁村での昼食時、あら懐かしや・イワシの塩焼きが巨大なプレートで運ばれてきました。岩塩をパラパラと降っただけの誠にシンブルなものでしたが、われらが幼少のころから馴染んできたそのままの味！つつい 4 尾も食べてしまいました。

日本から醤油などの調味料を持参する人も多いですが、この時ばかりは大根おろしと酢橘があったらなア・・・といささか残念な思いをしました。その時は大根おろしのチューブ入りなど有ると思っていなかったのですが、帰国してみると結構近所のスーパーに有るではありませんか、さすがに酢橘の果汁は見かけませんでしたが、ゆずとかレモンの濃縮還元果汁の小さなポットを見かけました。ポルトガルにお出かけの際はぜひお持ちになるようお勧めします。

地中海のムール貝

地中海の周りの国々ではどこへ行ってもムール貝がよく食べられています。ガリック風味のワイン蒸しのムール貝がワインクーラーと同じ位の大きさのバケツに山盛りで出てきます。

これがどうやら 1 人前らしく、最初の 1 個はフォークで身を取り出しますが 2 個目以降は 1 個目の殻をピンセットのように使ってバクバクとむさぼります。そして



殻をお皿にどんどん積み上げていきます。しかしひよつと気が付きました。我々日本人のグループのテーブルにはムール貝そのものはお皿に盛ってあり、反対にバケツが殻入れになっているではありませんか。

ハハア日本人はみんな食べきれないで残すのでこういう方式にしたんだなあと無理やり納得しました。(本当かどうかは分かりません)

ウィーンの中央墓地で

映画「第三の男」のラストシーンが印象的なウィーンの中央墓地のベンチで一休みしているところへ、ひよこひよここと現れた鳥に彼女が呼びかけました。

「ひよつとしてあなたアントン・カラスさん？」

お後が宜しいようで・・・。



22期同期生の皆様へ

第22期 篠崎 清

昨年からのコロナによって引き起こされた種々の問題によって平和で楽しい生活がすべて破壊されてしまったかのように感じられる昨今ですがいかがお過ごしですか。とはいっても22期生は今年85歳となりますので経験を生かしコロナに負けない楽しい余生を勝ち取るうではありませんか。

三商同窓会も会合を開くこともできず結果として令和元年に同窓会報58号を発行して以来、休刊しておりましたので何が何でも今年は発刊しようと決断し皆様のご協力を頂いたおかげで59号をお届けすることが出来ました。

我々22期の会合としては3年6組のクラス会パッション会が平成30年までは毎年開催しておりましたが今の様子は不明です。趣味の会としては30ゴルフ会が107回を2019年12月に開催以降中止しております。

毎年開催しておりました同期会も2020年2月に開催を最後に休眠中です。これには事情がございまして長い年月22期会の事務局として活躍されました船橋グランドホテル社長の皆川泰藏さんが諸事情により昨年末を持ってホテルを廃業なさいました。振り返りますと我々の会合はすべてグランドホテルを利用しており全て皆川さんにお任せでした。こんな成り行き上しばらくの間は事務局も動けませんので同窓会、同期会等のご用件はわたくし宛にご連絡くださいますようお願いいたします。(※編集部注)尚、皆川君については今年中には新居が出来上がるようには以前伺っておりましてお知らせできる時期

がきましたら皆さんにご連絡いたします。

尚、コロナ圏ではございますが都立三商とは連絡は密にございまして奨学金については杉本理事長さんが、学校に対する種々な補助金につきましては三浦会長さんが全力で対処しておりますのでご安心ください。

初めにも記しましたが我々は85歳と成りました。今回の同窓会報でも大勢の投稿を下さいました19期の先輩に負けぬよう3年後には我々も88歳の投稿を実現しようではありませんか。

※編集部注 同窓生、同期生の皆様の篠崎氏宛てのご連絡は同窓会事務局にお問い合わせください。

公益財団法人東京三商会より

公益財団法人東京三商会 理事長

第26期 杉本光男

日頃より当公益財団法人東京三商会の事業に、ご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年来の新型コロナウイルス発生で、世界中が大変な事態に陥っております。我々の生活も一変しました。感染防止に努めなければなりません、経済の打撃、一般生活への打撃は計り知れないものがあります。これだけ長く続くと体調を崩される人が多く出ています。終息の見えないなかでもオリンピック・パラリンピックはやろうとしています。特に学校が困っていると思います。これだけ制約されたなかでの授業は大変です。こんな時はできない、やれない、といって動かないのはよくないと思う。とにかく目の前の出来ることをしっかりとやることに専念しましょう。

このような大変な時期にもかかわらず、同窓会報の発行に動かれている役員の方、ご苦勞様です。頑張っているものを出して下さい。

当財団も皆様のご支援があつて、何とか順調に推移しております。昨年は42名に奨学金の給付を行いました。今年も奨学金につきましては、例年通り支給する準備をしておりますので、ぜひ活用して頂きたいと思っています。これからも将来社会に貢献できる優秀な人材育成の支援事業を粛々と進めてまいりますので、皆様の一層のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

三商同窓会報第五十九号

令和3年8月1日発行

発行者

都立第三商業高等学校同窓会

発行責任者

都立第三商業高等学校同窓会 広報委員会

編集者

東京都江東区牡丹1の12の8 三商会館4階

都立第三商業高等学校同窓会事務局

杉本 光男

電話 03(3643) 3392

ファクシミリ 03(3643) 3396

印刷所

オフィス岩瀬

同窓会事務局より 活動報告予算他

活 動 記 録 (31年度)

No. 1

日付	曜日	摘 要	備考
31/4	9 火	入学式	
4	12 金	東京校歌振興会 総会	小山台会館大会議室
4	16 金	30年度会計監査	三商会館 4階会議室
4	16 金	理事会	三商会館 4階会議室
		第1号議案 評議員会にむて	
		第2号議案 31年度の事業計画と予算案について	
		第3号議案 同窓生の集い(総会)について	
		第4号議案 ホームページについて	
		第5号議案 東京三商会現況報告	
		第6号議案 その他	
5	25 土	平成30年度評議員会	三商 大会議室
		第1号議案 平成30年度事業報告承認の件	
		第2号議案 平成30年度会計報告及び監査報告承認の件	
		第3号議案 平成31年度事業計画案承認の件	
		第4号議案 平成31年度予算案承認の件	
		第5号議案 同窓会会則一部改訂承認の件	
5	29 水	学校運営連絡協議会	三商 大会議室
6	15 土	東京校歌祭実行委員会	西校 食堂
6	26 水	三商会計人会 総会	三商会館 4階会議室
7	6 土	「三商同窓会報」58号発送	三商会館 4階会議室
8	5 月	理事会	三商会館 4階会議室
		第1号議案 「三商同窓会報」58号報告	
		第2号議案 第27回「東京校歌祭」について	
		第3号議案 新年会について	
		第4号議案 ホームページについて	
		第5号議案 東京三商会現況報告	
		終了後会議室で暑気払い	
10	5 土	理事会	三商会館 4階会議室
		第1号議案 「三商同窓会報」58号報告	
		第2号議案 第27回「東京校歌祭」について	
		第3号議案 新年会について	
		第4号議案 ホームページについて	
		第5号議案 東京三商会現況報告	

活 動 記 録 (31年度)

No. 2

[illegible]

平成31年度 会 計 報 告

自 平成31年 4月 1日

至 令和 2年 3月31日現在 (単位 円)

項 目	予 算 額 (A)	執 行 額 (B)	差 額 (B-A) / (A-B)	備 考
前年度繰越	8,626,574	8,626,574	0	
(収入の部)				
会費(87期)	2,000,000	1,959,120	-40,880	卒業生 196名
運営協賛金	20,000	0	-20,000	
事業収入	450,000	492,000	42,000	
利息他	100	115	15	
収入合計	2,470,100	2,451,235	18,865	
[支出の部]				
理事・評議員会	150,000	131,805	18,195	
総会(同窓生の集い)	0	0	0	
新年会	275,000	313,500	-38,500	
校歌祭	150,000	289,476	-139,476	
同窓会報	450,000	506,420	-56,420	
ホームページ	80,000	97,200	-17,200	
活性化活動費	50,000	0	50,000	
母校部活支援	200,000	194,250	5,750	
就職活動支援	100,000	139,439	-39,439	
母校支援	200,000	332,546	-132,546	懸垂幕の作成他
会合費	10,000	21,899	-11,899	
慶弔費	50,000	5,000	45,000	
通信費	300,000	340,789	-40,789	
事務・消耗品費	80,000	737	79,263	
雑費	10,000	4,140	5,860	
東京三商会	600,000	600,000	0	
特別会計予算	200,000	200,000	0	
支出合計	2,905,000	3,177,201	-272,201	
次年度繰越	8,191,674	7,900,608	-291,066	
(事業収入内訳)				
1 新年会会費	150,000	172,000	会費¥3,000- 53名 祝儀¥13,000- 2名	
2 「三商同窓会報」広告収入	280,000	263,000		
3 同窓生の集い会費	0	0		
4 校歌祭反省会会費	0	57,000	会費¥3,000- 19名	
5 その他雑務収入	20,000	0		
合 計	450,000	492,000		

特別会計(周年記念事業)

上記のとおりご報告申し上げます。

令和2年4月18日

前年度繰越 803,972

会 計 渡 邊 秀 明

一般会計(87期) 200,000

会 計 小 林 慎 典

受取利息 3

収入合計 200,003

監査の結果正確である事を認めます。

令和2年4月18日

監 事 古 田 勝 一

差引次年度繰越 1,003,975

監 事 三 川 廣 志

令和2年度 会 計 報 告

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月31日現在 (単位 円)

項 目	予 算 額 (A)	執 行 額 (B)	差 額 (B-A)/(A-B)	備 考
前年度繰越	7,900,608	7,900,608	0	
(収入の部)				
会費(88期)	1,700,000	1,699,120	-880	卒業生 170名
運営協賛金	20,000	0	-20,000	
事業収入	685,000	0	-685,000	
利息他	100	114	14	
収入合計	2,405,100	1,699,234	705,866	
[支出の部]				
理事・評議員会	150,000	14,000	136,000	
総会(同窓生の集い)	300,000	0	300,000	
新年会	300,000	0	300,000	6,000— 50名
校歌祭	170,000	0	170,000	*
同窓会報	450,000	0	450,000	
ホームページ	80,000	98,100	-18,100	
活性化活動費	50,000	0	50,000	
母校部活支援	200,000	199,962	38	
就職活動支援	100,000	98,515	1,485	
母校支援	200,000	167,571	32,429	懸垂幕の作成他
会合費	20,000	0	20,000	
慶弔費	50,000	0	50,000	
通信費	300,000	31,732	268,268	
事務・消耗品費	80,000	44,330	35,670	
雑費	10,000	0	10,000	
東京三商会	600,000	600,000	0	
特別会計予算	200,000	200,000	0	
支出合計	3,260,000	1,454,210	1,805,790	
次年度繰越	7,045,708	8,145,632	1,099,924	
(事業収入内訳)				
1 新年会会費	0	0		
2 「三商同窓会報」広告収入	0	0		
3 同窓生の集い会費	0	0		
4 校歌祭反省会会費	0	0		
5 その他雑務収入	0	0		
合 計	0	0		

特別会計(周年記念事業)

上記のとおりご報告申し上げます。

令和2年4月18日

前年度繰越 1,003,975

会 計 渡 邊 秀 明

一般会計(88期) 200,000

会 計 小 林 慎 典

受取利息 6

収入合計 200,006

監査の結果正確である事を認めます。

令和2年4月18日

監 事 古 田 勝 一

差引次年度繰越 1,203,981

監 事 三 川 廣 志

令和2年度 事業計画案

- 今年度も前年度同様、若い世代に同期会を行ってもらよう働きかけをし、支援する。
- 例年通り母校支援に努める。
- 今年は隔年行う総会(同窓生の集い)があります。

1 定時評議員会

令和2年5月23日(土) (本日開催)

2 「三商同窓会報」59号の発刊

投稿締切 令和2年5月末日(厳守) 発行 令和2年7月1日予定
今回も広告をたくさん募集する

3 第28回東京校歌祭への参加

日時 令和2年10月25(日)
会場 杉並公会堂大ホール

4 同窓生の集い 場所 未定

日時 未定
場所 未定

5 新年会

日時 令和3年2月 日(土)
場所 両国「ビューホテル」

6 活性化活動

同期会開催のコーディネートに重点を置く

7 支援活動

母校支援(部活動支援、就職活動支援、その他)

9 「公益財団法人 東京三商会」については逐次報告する。

令和2年度 収 支 予 算 (案)

自 令和2年4月 1日
至 令和3年3月31日 (単位 円)

項 目	31年度予算額	31年度執行額	項 目	2年度予算額	備 考
前年度繰越	8,626,574	8,626,574	前年度繰越	7,900,608	
(収入の部)			(収入の部)		
会費(87期)	2,000,000	1,959,120	会費(88期)	1,700,000	
運営協賛金	20,000		運営協賛金	20,000	
事業収入	450,000	492,000	事業収入	685,000	
利息他	100	115	利息他	100	
収入合計	2,470,100	2,451,235	収入合計	2,405,100	
(支出の部)			(支出の部)		
理事・評議員会	150,000	131,805	理事・評議員会	150,000	
総会(同窓生の集い)	0	0	総会(同窓生の集い)	300,000	
新年会	275,000	313,500	新年会	300,000	@6,000- 50名
校歌祭	150,000	289,476	校歌祭	170,000	*
同窓会報	450,000	506,420	同窓会報	450,000	
ホームページ	80,000	97,200	ホームページ	80,000	
活性化活動費	50,000	0	活性化活動費	50,000	
母校部活支援	200,000	194,250	母校部活支援	200,000	
就職活動支援	100,000	139,439	就職活動支援	100,000	
母校支援	200,000	332,546	母校支援	200,000	
会合費	10,000	21,899	会合費	20,000	
慶弔費	50,000	5,000	慶弔費	50,000	
通信費	300,000	340,789	通信費	300,000	
事務・消耗品費	80,000	737	事務・消耗品費	80,000	
雑費	10,000	4,140	雑費	10,000	
東京三商会	600,000	600,000	東京三商会	600,000	
特別会計予算	200,000	200,000	特別会計予算	200,000	
支出合計	2,905,000	3,177,201	支出合計	3,260,000	
次年度繰越	8,191,674	7,900,608	次年度繰越	7,045,708	

(校歌祭予算)

参加費・広告費	60,000
交通費60名@1,000-	60,000
反省会費用25名*2000	50,000
計	170,000

(事業収入明細)

① 新年会会費 ¥3,000- 50名	150,000
② 三商同窓会報広告収入	280,000
③ 同窓生の集い会費 ¥3,000- 60名	180,000
④ 校歌祭反省会会費 ¥3,000- 25名	75,000
⑤ その他雑務収入	
合 計	685,000

平成31年度特別会計(周年記念事業)

前年度繰越	803,972
一般会計(87期会費)	200,000
受取利息	3
収入合計	200,003
支出合計	0
差引次年度繰越	1,003,975

令和2年度特別会計(周年記念事業) (案)

前年度繰越	1,003,975
一般会計(88期会費)	200,000
受取利息	3
収入合計	200,003
支出合計	0
差引次年度繰越	1,203,978

番号印刷専門 昭和13年1月1日開業

スドウナンバー

31期 須藤 義勝

〒104-0043 東京都中央区湊 2-3-3
Tel.03-3551-9078 Fax.03-3553-8486



柏 俊太郎 (第35期)

〒136-0071
東京都江東区亀戸 6-23-10
カーサカッシーノ 1F
TEL 03-3682-0033

ふく・鶏ちゃん・焼き鳥 鳥 義

墨田区石原 3-17-3-101

電話 03-3626-4466

FAX 03-3622-8349

30期

氏家 賢
柔道部

<http://e-sumida.gr.jp/toriyosi/>

中華喜楽

江東区亀戸 3-44-16
電話 03-3681-0563

天神様もお忍びで来るらしい! 亀戸天神そば
定休日月曜日(祝日の場合営業)

営業時間10時から21時 33期 長浜英行

『両国の駅のおそばの大関庵
味も良ければ盛りもよいよい』

そば処 大 関 庵

19期 大 関 守

JR両国駅西口
国技館通り中程

TEL.03-3631-0728

相談役
今 泉

株式会社 エイケン

本社 東京都中央区本町七丁目九番地
TEL 03-3681-0001 FAX 03-3681-0002
支店 東京都墨田区錦町七丁目九番地
TEL 03-3681-0003 FAX 03-3681-0004
支店 東京都墨田区錦町七丁目九番地
TEL 03-3681-0005 FAX 03-3681-0006

清
(31期)



三商49期

同期会一同

1963年4月~1964年3月生

1982年3月卒

創業明治四〇年
下町の味を伝えて一世紀
うなぎ

川 勇 高木 利夫

(第三十三期)
元史学部

〒130-0011
東京都墨田区石原三三〇九
TEL: 03-3622-5592
FAX: 03-3622-5592
E-mail: unagiya@com.home.ne.jp

有限会社 みのる不動産

都知事 (14) 21090 号
公益社団法人 東京都宅地建物取引業協会 会員

代表取締役 三 川 廣 志
(第 3 4 期)

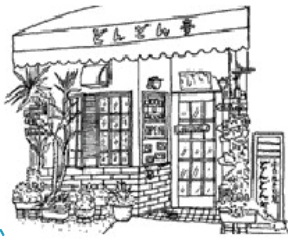
■ 亀戸店 東京都江東区亀戸 7丁目11番12号 京葉道路面
TEL (3684) 5851(代) FAX (3684) 5850
E-mail: mk@e-minoru.com

■ 本 店 東京都江東区北砂 7丁目4番3号 環状四号面
TEL (3644) 7573(代) FAX (3640) 2543

関西風お好み焼き

どんどん亭

33期 坂口保夫



森下交差点角 すき屋並び
定休日 月曜日 営業時間 17時～23時

電話 **03-3635-4823**
江東区森下 2-18-1

みっま

住所 / 130-0022
東京都墨田区江東橋
4-20-4

TEL / 03-3631-5850
定休日：土曜及び祝日です

河西紀道 第25期
(墨田区食品衛生協会会長)

手
打
蕎
麦



(墨田区銘品名店会)

代表社員

荻野弘康 (第二十二期)

東京都荒川区南千住五丁目二五丁目十四
〒116-0003
TEL 03-3803-1328
FAX 03-3805-1069
MAIL: zai_ogi@d3.dion.ne.jp

中小企業、納税者の権利拡充に努めます。
税理士法人 **荻野会計事務所**
経営革新等支援機関
—— 経済産業省 ——

～同級生からのコメント～

昭和29年10月第1回全国高等学校簿記コンクール
に出場団体戦優勝都立三商 (荻野・西脇・中川)
個人の部優勝 (荻野弘康)

割箸・テーブルウェアで108年



株式会社

赤田本店

AKADA COMPANY, LTD.

代表取締役 **赤田安司**
(第34期)

電話 03-3625-4184
FAX 03-3625-9399
メール akada-honten@mx5.ttcn.ne.jp

公認 不動産コンサルティングマスター

西 邨 昭 一 (第31期)

一般社団法人 千葉県宅地建物取引業協会
公益社団法人 全国宅地建物取引業保証協会千葉本部
専任相談員

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-17-3 (千葉県不動産会館)
TEL : 043-241-6671 FAX : 043-245-0866

(自宅)

〒279-0042 浦安市東野2-6-1
TEL : 047-353-0932 FAX : 047-353-0932

代
表

大石傑一郎

(23期珠算部々長)

て
る
て
る
ぼ
う
ず

リ
サ
イ
ク
ル
シ
ョ
ッ
プ

曳舟本店 〒131-0032
東京都墨田区東向島 2-14-1
メゾンド大石1階

自 宅 〒111-0051
東京都台東区蔵前 4-28-5
蔵前大石ビル4階

☎ 03 (3861) 0084 FAX 03 (3861) 0067



街と住まいと
お客さまをつなぐ

不動産のことならご相談ください
住宅・事業用など
トータルサポート致します

【当社開発事例 イメージパース】
新築分譲住宅 全7棟
大雄開発「クリエイションシリーズ」

(公社)東京都宅地建物取引業協会会員 東京都知事免許(13)第26577号

大雄開発株式会社

代表取締役会長 松岡雄治(第26期)

〒136-0072 東京都江東区大島1-29-6 アブローズ西大島101

TEL:5628-1511 FAX:3636-2292



物件情報満載 HP

売買情報 <http://www.daiyukk.co.jp> 賃貸情報 <http://www.daiyukk.com>

『新着物件情報』・『オープンハウス情報』など掲載中です!!

文京区湯島3-8-1
03(3833)4529
※社会情勢により変更あり

菜肴
ますだ

かつ進

神田鎌倉橋店 03-3256-1298
外神田店 03-3832-2981

26期 増田進一郎
31期 増田トシ子

Sugimotokouji

株式会社 杉本好二商店

代表取締役 杉本光男

第26期 (卓球部)

〒130-0002 東京都墨田区業平1-17-5
TEL 03-3623-2185
FAX 03-3623-1859

砂利・砂・セメント・砕石
生コンクリート・アスファルト 販売店

おしゃれエプロンメーカー

有限会社 篠崎

取締役会長 篠崎 清 (第22期)

〒272-0021 市川市八幡4-17-33

TEL047-334-5027 Fax047-334-5432



細田木材工業株式会社

顧問
細田安治 (19期)



〒136-0082 東京都江東区新木場 2-5-3
TEL03-3521-8701
fax03-3521-8708
e-mail: yasuji@woody-art-hosoda.co.jp
<http://www.woody-art-hosoda.co.jp/>

合法木材供給
事業者認定
[輸入協-037]



ISO9001



2000
健康経営優良法人
Health and safety

夢をかたちに・・・



中外徽章株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-2

TEL:03-3294-3431 FAX:03-3294-3436

<http://www.chugaikisyo.co.jp>

相談役 古田 勝一 (第26期)

祝
傘寿
さん じゅ

都の空は明けたり、今...!!

昭和34年(1959年) なつかしの時計塔が
聳える校舎を472名で卒業した26期生(生存者400名程)は
令和2年~3年に80才の傘寿を迎えることができました。

「生涯青春で有り続けたい」との願いから、第26期は
毎年同期会を開催しております。

第26期 同期会会長 古田 勝一